

目 次

(ページ)

2023年度	笹川科学研究助成	総	評	3
	重点テーマ： 「海に関する研究」	総	評	7
	人文・社会系	総	評	11
		助成対象者		15
	数物・工学系	総	評	17
		助成対象者		19
	化学系	総	評	21
		助成対象者		25
	生物系	総	評	27
		助成対象者		31
	複合系	総	評	39
		助成対象者		43
	実践系	総	評	45
		助成対象者		49
		応募・採択状況		51
2022年度	笹川科学研究奨励賞	概	要	53
		受賞者		55

* 本一覧は日本科学協会のホームページに掲載いたします。

2023 年度笹川科学研究助成総評

笹川科学研究助成事業委員会委員長

笹川科学研究助成は、当時は助成団体への研究費申請のできなかった大学院生や研究生といった若手研究者を対象に 1988 年にスタートし、今回で 36 回目を迎えました。今では文部科学省の科学研究費（学術振興会が所掌）に大学院生を対象とする申請枠ができ、また、民間の一部でも大学院生向けの研究支援事業が進められるようになりました。しかし、大学院の修士課程や博士前期課程で申請できるのは、本助成以外は未だ稀です。本助成がこうした社会の動きのきっかけになっているとすれば、嬉しい限りです。

今年度の申請は 1,144 件で、研究費の申請総額は 14 億 452 万円に上りました。厳正な審査を経て学術研究部門と実践研究部門を合わせて 319 件（採択率 27.9%）が採択されました。学術研究部門の採択者 228 件の 75.2%は大学院生で、残りは 35 歳以下の非常勤または任期付き雇用研究者の方々です。学術研究部門では、女性研究者が 35.3%、留学生及び外国籍研究者が 15.1%でした。こうした傾向は、このところあまり変わっていません。今年度で、笹川科学研究助成の助成総数は 10,909 件になりました。今や、国内で活躍しているすべての年齢層で助成研究者が活躍していて、大学や研究所の研究者のおよそ 10 人に 1 人が OB・OG といっても過言ではありません。36 年間の助成研究費は、総額が約 65 億円にのぼります。これはひとえに日本財団のご支援によるものです。

1997 年には、海洋・船舶科学分野の支援強化を目指して学術研究部門に海洋・船舶科学系を新設し、2018 年度まで 22 年間募集しました。しかし、分野的な偏りが感じられ、広範囲な海の研究分野を支援するため、2019 年度に海洋・船舶科学系を廃止し、代わりに学術研究部門のすべての系に「海に関係する研究」のチェック欄を設けて募集したところ、従来の 2 倍以上の申請があり、研究分野も大きく拡大しました。以来、学術研究部門の全分野で「海に関係する研究」を募集しています。

学生・契約研究者など、現行制度では研究助成の受けがたい身分の若手研究者に本事業はかなり周知されてきました。ただ、採択課題を見ると若手研究者に期待される萌芽性・新規性・独創性のある研究が必ずしも多くありません。昨今、指摘されるような「日本全体としての活力低下」があるとするれば、萌芽性・新規性・独創性のある研究自体の全国的な減少が懸念されます。加えて、学術研究部門の申請の 52.8%が生物系で、複合系、数物・工学系、化学系の申請にも生物課題が含まれることを考えると、全体の研究申請に占める生物分野の割合は極めて高く、年々この傾向が強くなっています。この状況は本研究助成事業だけで

なく、国内外の他の研究助成事業でも同じと聞きます。

それぞれの専門分野の申請傾向については、分野責任者と各選考委員長の総評を見ていただくとして、全体に共通している点を三つ上げます。一つは、多くの研究が先鋭化していることです。研究成果を上げる点では素晴らしいことですが、ともするとその研究の位置づけを見失う危険があります。是非、少し引いた位置から自分の研究を眺める余裕を持っていただければと考えます。二つは、様々な科学・技術が開発された結果、無理矢理最新技術を使おうとする研究です。研究は必ずしも最新技術を使うことではありません。三つは、それぞれの研究分野、あるいは科学・技術全般を俯瞰した視点、または物事の考え方を考えることにつながりそうな研究課題が余り見当たらないことです。

実践研究部門では、2013年度から学芸員・司書等が行う資料の調査・研究に加え、学校・NPOなどに所属する人たちが行う調査・研究を支援する問題解決型研究の二つの窓口で申請を受け付けています。2023年度の実践研究の申請は、学芸員等研究 19 件、問題解決型 37 件で、合計 56 件ありました。

2020年の年明けから、世界的に新型コロナウイルス（COVID-19）が流行し、国内外での現地調査をはじめとして実験室やキャンパスへの出入りが大幅に制限されるなど、研究活動が著しい影響を受けています。審査では、制約された条件下での申請者の工夫に注目しました。

研究助成を受けられた方には、翌年2月に研究完了報告を提出していただき、それらをもとにして各選考委員会で研究評価を行います。2007年度から、優秀な成果を上げた研究者には研究奨励賞が授与されています。学術研究部門の6系（生物系は生理・発生・分子・生花・遺伝などと分類・生態・農・水産などの2分野）と「海に関係する研究」、ならびに実践研究部門からそれぞれ2人ずつ合計16名が選ばれ、2023年4月21日（金）の研究発表会で発表をしていただき、賞状と副賞が授与されます。4年ぶりの開催となり、発表の様子は、後日、Web上でも映像として公開いたします。

さらに、日本で活躍している笹川科学研究助成者（OB・OG）には助成後もいくつかの支援を行っています。一つは、2001年度に始めた海外での研究発表の旅費と参加費用の支援で、毎年58～83件に上ります。しかし、直近の2年間はCOVID-19の流行でほとんどの国際研究集会が中止され、ごく一部がオンライン開催となり、その参加費を支援しました。今後も、引き続いてオンラインを含め、国際集会での研究発表へのきめ細かな支援を進めてまいります。2020年度の海外研究発表支援20周年を期に、20周年誌「研究は海を越え、20年の軌跡」（A4版64頁）をまとめて出版しました。二つは、OB・OGと企業との関係の構築のた

めの企業関係者を対象とした OB・OG の研究発表会の開催で、第 1 回を 2019 年 9 月に開催し、OB・OG と企業関係者の双方から好評をいただきました。以来、COVID-19 の影響で研究発表会は開催できていませんでしたが、状況が改善してまいりましたので、2023 年 10 月に第 2 回の開催を予定しております。三つは、OB・OG が進めている研究を社会に広く知ってもらうため、OB・OG を出版社に紹介して科学一般書として出版する支援です。松田英子東洋大学社会学部教授著の「夢と読み解く心理学」(ディスカヴァー携書) が 2021 年 8 月に出版されました。以上の支援を充実させていくとともに、その他の支援も随時進めてまいります。

このように笹川科学研究助成事業は、日本国内で活躍する優れた若手研究者を発掘して長い目で支援し、日本をはじめとして世界の将来の科学・技術の発展に寄与してまいります。

2023 年度重点テーマ：「海に関する研究」 総評

海洋関連研究責任者

ここでは、各系への申請の中で重点分野として「海に関する研究」にチェックがされた申請書の評価を行いました。そのこともあって、様々な分野から多くの提案がありました。4 年生と博士前期課程の申請者が全体の約 60%、博士後期課程も加えると 85%を超しており、昨年度よりも若干学生からの申請が多くなっていました。今後も、多様な機関から意欲的な申請を期待しています。

1. 全体的な総評

- ・ 海に関する研究で応募されているにも関わらず、目的等にほとんど海に関する記述がない申請書が見られました。例えばプラスチック問題は海洋で問題とはなっていますが、その研究のどの部分が特に海洋に関係するかがはっきり述べられていないと、海洋に関する研究とみなすことは困難です。
- ・ 応募数と研究分野ともに大変多く、よく練られた申請書が沢山あって選考には苦慮しました。研究に主体的に高いモチベーションを持ち、その熱意を論理だった科学の手法へと変換して自身の研究を高めるようにして欲しいと考えています。
- ・ 申請書としてはとても読みやすいものが増えてきたように思います。図等をうまく利用している申請書も多くなっています。一方で、まだ文章区切りがおかしく、図を利用しないような読みにくい申請書も見られました。
- ・ 評価者は多様な申請書を、限られた時間で多く読む必要があります。従って、評価者が読みやすく、専門外の内容でも理解できるように記述することが大切です。
- ・ 申請書のレベルは全体的に高く、体裁的にも誤字等はほとんどなかったように思います。ただし、入力時の操作ミスと考えられる不備のある申請書や、誤字脱字の多い申請書も一部見受けられました。人間は誰でもミスをするものですが、読む側にとってそのミスはプラスに働くことはありません。推敲を十分にして間違いのないように慎重に操作をして申請するようにしましょう。

- ・新しい技術や装置を利用する研究はそれ自体で新しいともいえますが、申請書としてはそれによってどのような新しい知見が得られて、どのように研究が進む可能性があるかをしっかり記述する必要があります。
- ・申請者の独自の発想から生まれたアイデアを、関連する分野の専門家である推薦者の指導を受けて、研究計画を作り上げたような研究が、本会の独創性、萌芽性を重視する方針に適合すると思われ、高く評価しました。ただ、そういうケースは限られており、必ずしも多くはありませんでした。所属する研究室がこれまで進めてきた研究の一端を担うものが多く、それを必ずしも否定するものではありませんが、そうした一連の研究の中の単なる 1 パーツではなく、申請者が独自のアイデアで新しいテーマを見つけ出したような研究が期待されます。
- ・大型研究プロジェクトの一端を担う計画の場合、目的だけでなく経費についても、応募課題が分担する部分が明確にわかるよう記載してください。
- ・研究予算は税金であっても助成金であっても、使用したら結果を公表することが強く期待されます。小さな結果であっても学会などで発表するなり、査読付きのジャーナルに論文として公表することが習慣になると、研究はより発展すると思います。

2. 個別の分野に関する総評

- ・動物以外の海洋生物に関する研究では、これまで以上に海藻や海草に関する研究が多く見られました。また、COVID-19 で注目され、技術的にも進んだためか、ウイルスや菌類に関係する研究も増えたような印象です。(海洋生物分野)
- ・廃プラスチックや海洋汚染に関わる研究や生体防御機構に関する研究の数が増えているという印象です。一方、分類学、生理学や生態学に関わる研究も変わらず沢山出てきています。いずれの研究分野にも分子生物学的な手法が取り入れられているケースが多く、試薬やキットの単価が高いことから皆の工夫や苦労がうかがわれます。(海洋生物分野)
- ・近年の温暖化に伴う特定生物や生態系の変化および将来予測に関する研究が増えてきました。いずれも重要かつ興味深い課題ですが、同様の計画が多く提案されていることを踏まえ、研究の独自性など他と差別化を図ることが重要かと思います。(海洋生物分野)

- ・ 申請課題はいずれも海洋関連の研究として相応しいものであった。研究の対象は無脊椎動物から哺乳類まで幅広く、手法も野外観察、飼育実験、遺伝子解析など多岐にわたっていました。採択と不採択課題の評価は僅差で、タイトルが目を惹くものや、予算計画がより綿密な申請書が有利となりました。(海洋生物分野)
- ・ 地球化学、海洋環境、地学分野の申請では、ほとんどの申請書が背景、目的、手法、計画などがきちんと書かれていて、良質に仕上がっていました。そこで、選考はとても難しく、採択から漏れた中でも優秀な提案書が数多くありました。博士取得されている方には実績が求められます。一方、若い方の場合には、意気込みが加算されます。(地球化学、海洋環境、地学分野)
- ・ 海洋物理等海洋学に関わる分野では、海洋大循環に関わるものから、沿岸域の生物環境に関わるもの、マイクロプラスチックなど人為起源の汚染に関わるものまで幅広いトピックの研究の提案があり、それらの中で、物理過程を化学トレーサーを用いて解明したり、生態系モデルを取り入れたりなど、学際的な研究が多いことが注目され、比較的高レベルの高い研究計画が多くありました。(海洋物理)
- ・ 地球環境問題対策、海洋再生可能エネルギーの利用、防災に研究動機の出発点を有する研究申請が多く見られました。人類社会の重要な課題に研究の動機を持つことは重要であると考えられます。一方で、新しい発想であっても関連する先行研究はあります。これらを調査し提案内容に反映させ磨きをかけることで、単なる思い付きの領域を脱して、より魅力的な萌芽的・独創的な研究提案になったであろう申請もかなり見られました。(海洋工学分野)
- ・ 採択と判定したのは、成果が得られた際の社会に対する貢献が大きく、大胆な研究であると感じた申請です。その一方で、最近のトピックスを研究テーマに据えて助成申請を行っているのですが、研究で得られるであろう成果に魅力的なものが少ない申請もありました。もっと大胆な発想で研究のゴールを決めて、そのための研究を行う旨の研究目的、研究目標を構築してほしいと感じました。失敗が出来ないと考えて助成申請書を作成すると大胆な発想は控えめになるので、将来の世界に必要なものであることを強調した研究目的を作成してほしいと感じました。(海洋工学分野)
- ・ 今回の助成申請では昨年に引き続き、海洋環境に関連した内容の助成申請が多くみられました。その一方で海洋技術や船舶工学関連の研究は少なく感じました。(海洋工学分野)

- ・ 海洋に関する人文系の助成申請については、僅差で採択候補にならなかったものもふくめ、昨年よりも多くの申請があったように感じました。分野的に人文は助成が得られる公募が少ないので、今後も助成申請を積極的に行っていただきたいと思います。(海洋人文科学分野)
- ・ 人文・社会科学分野の申請は、今回はこれまでになく多く、大いに喜ばしい限りです。日本人以外や女性の申請者も多くなっていました。取り上げられている研究課題のテーマも、漁業、海ごみ、文化・民俗、景観、保護区、海棲哺乳動物、安全、産業研究と多岐にわたっていました。(海洋人文科学分野)
- ・ なお、今回から申請金額の上限が 100 万円から 150 万円に引き上げられているにもかかわらず、10 万円台の申請が見受けられました。研究計画の実施方法が簡便で低コストですむ内容であったためと推察されますが、研究計画の実施方法をさらに多面的、多角的に検討して充実したものとして、本助成研究を最大限に活用するよう、工夫を凝らしてもらえればと考えます。(海洋人文科学分野)

※「海に関係する研究」は、申請時に選択した研究区分の一覧に含まれます。

2023 年度人文・社会系総評

人文・社会系選考委員会委員長

<時代状況を受けた総評>

日本科学協会の笹川科学研究助成に、徐々に落ち着きを見せ始めているとは言え、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという時代状況のなかで、若手研究者による多数の申請が寄せられたことは、今後の日本の学問研究の興隆に寄与するものと、おおいに期待するものです。

日本のみならず世界全体での、コロナ禍の収束とまではいかなくとも、国境を超えた往来を許可する傾向が増加し、今年の申請は、移動を伴う現地調査や対面的なインタビューを必要とする研究計画がやや回復したこと、日本の近年の時代状況を受けて自閉症関連や心・精神をテーマとする申請が今年も一定数あったことなどが、挙げられます。この心理学、人間科学分野では、日本の心理学全体の傾向なのでしょうか、「発達障害」という規定とここからのアプローチがやや過多という印象を受けましたが、他方そこには、福祉と救済の精神が読み取れ普遍性に向かう意欲を感じさせる研究が多かったことは、科学界全体として喜ばしいことだと感じています。ディシプリンも、心理学、教育学、社会学、文化人類学、地理学、歴史学、考古学、文学、政治学、美学、芸術学、経済学、農学など幅広い分野からの応募があり、留学生、女性研究者の応募も例年以上に目立ちました。好ましい傾向として、歓迎します。社会科学で言えば、政治学の応募は増加していますが、経済学系統の応募はもっとあっていいと期待します。

また、手堅い研究が少なくなく、研究計画も堅実に立案、作成されたものが多かった印象を受けます。その一方で、冒険心に飛んだ立論が少なかった印象も受けます。先行研究をトレースしただけと思われる申請書も存在し、発想の萌芽性・独創性という面においては、些か残念な結果でした。本助成は、人文・社会系の若手研究を支援するものであり、この視点を重視するならば、よりユニークで挑戦的な枠組みを構築してほしいところです。

新規性、独創性ある研究計画を提案するには、毎日の地道な研究生活の積み重ねが不可欠です。また、時間、予算、移動をはじめとする様々な制約がある中では、実現可能性の高い研究の実施内容、具体的な研究方法を熟考し選択することが肝要です。

まだ社会の基底に不自由さが残っている時期だからこそ、今一度、研究の実施内容とともに研究目的とその社会的意義を再確認する必要があるといえます。その独自性の説明が専門分野に閉じすぎ微細な説明に限られ、より広い社会性からの説得力や普遍性の付加が求められるなど、いくつか気になる点が出てきたのも事実です。そこで、以下に 2023 年度申請をめぐって、感想と留意点を記します。

<個別の留意点>

専門説明と普遍説明

専門性が十分に深められる研究である必要とともに、その意義が多くの人に理解できるように書く必要があります。研究のより広い分野での意義や社会性・普遍性の広がり意識して、専門の異なる評価者にも理解できるように、独自性や意義をわかりやすく説明する工夫が必要です。心理学や人間科学の分野に、また人文社会分野と言いながら実験など方法論で自然科学の方法をとる研究に、この両面で説得力を持たせようとする、図表使用の工夫や初期理解を企図する詳細説明の努力が多くなされてきているのは、研究の重要性を説くのに良い説明だと、評価できます。一層の両面努力を期待したいと思います。

申請分野

このような、専門化を深める説明と広い問題関心者にも伝える努力の必要性は、自らの申請分野に齟齬がないか、いま一度、申請者が再考する必要性とも結びついています。一部の申請には、明らかに学術世界で一般に承認される「人文・社会の範疇」を逸脱する研究が見られ、しかもそれが分業を集成した自然科学系の大規模共同研究や研究室全体の資金調達を目的としたと疑われる申請が見られることは遺憾です。自然科学と人文社会科学との距離を埋める説明努力を一層おこなうか、申請分野を変えて申請したほうがよいのではないかと考えられる申請も見られます。熟慮と対応を期待したいと思います。

独自性と新規性

独自性・新規性に充ちた問題意識を堅実に深めていく研究を求めています。その意味で、「フランス革命期・ナポレオン統治期にイギリス革命史を読む、書く」や「明治維新と近世中国の政治概念 - 幕末日本における宋・明史受容を手がかりに - 」が、また、発想や着眼点が従来にない新規性が高い研究としては、「ハンセン病療養所退所者のライフストーリー - 研究 - 各地域における多様な社会関係に着目して」や「紛争処理をめぐる伝承 - 中国江西チワン族自治区大山ヤオ族における慣習法に関する法民俗的研究」などが、堅実な手続きをふまえながら、対象化に工夫を凝らすなど今までにない切り込み方を示して高い評価を得ました。福祉学と心理学をつなぐ研究が多く現れ、福祉の枢要性という時代の要請を着実に捉えた研究等に良い研究が増えているのは、新規性ある実践的な切り込

みの現れと理解しています。

当該研究分野で時代の風潮を受けたキーワードを多用しただけの申請は評価が低くなりますし、逆に古典的な枠組みから一步も踏み出せない申請も評価が低くなります。視点を変えて切り込むなど、古くからあるテーマでも自分の研究観点から再定置し、説得力ある新規性を発揮した申請もありました。

研究計画－内容－方法の明確化と「マクロビジョン・総合研究達成と単年度申請」

研究内容は、研究の学術的意義をはじめ、その研究計画が研究者としてどのような好奇心から導き出されたものであるのか、あるいは、人間社会が抱えている様々な課題にどのような貢献をすることができるのかが理解できるものであることが望まれます。その研究の明確性を前面化するためには、「研究の実施内容」欄に、研究内容そのものを列記するだけではなく、研究を実施するにあたっての方法（調査、資料収集、実験、インタビュー、アンケート調査など）を研究内容に沿って具体的に書くことが重要です。時代状況もあって、対面ではなく、オンラインサーベイによる研究が増えてきていますが、特にアンケート調査ではどこまで有効性を担保できるか、十分な説明をおこなっておく必要があります。

研究計画について、自分の研究としてスケールの大きい研究や比較研究を持っていいのですが、本助成のような単年度申請では、焦点を絞る方法も説得力を持ちます。時代思潮を抽出する全体研究のビジョンを示したのち、単年度に実現可能なテーマに集中する工夫を加えるなど、テーマを明確にした研究も説得力ある申請となります。

予算の立て方と研究計画－図書費、旅費、謝金、論文掲載費

支出計画では、図書費を漠然と計上している申請が少なくありません。図書館などで閲覧可能と思われる書籍を購入しようとする申請は、評価が低くなります。そこでしか入手できない地方出版物や特殊な出版物など、その書名を明示するなどして、図書資料の購入の必要性を説いて欲しいと思います。アルバイトを使うなど謝金の使用についても、それが本当に必要な助力か十分にチェックされることをお勧めします。基本的に、若手研究者が「自ら汗をかく」研究態度が求められます。また、一般に謝金はその意味が不明瞭になりやすく、「手土産代」と解されないよう注意深く計上する必要があります。研究方法論上、実質的な現地調査を中心に据えるにしても、往復の旅費交通費だけ突出した料金で申請し、他の研究項目に資する出費を計上していないものも、実現可能性が低く評価されます。調査を外部発注する費用だけに巨額の費用が計上されているのも、好ましくありません。比較的大きな予算が必要となるウェブアンケート委託費用や赤外線カメラ・3D スキャナー・パソコンなどの機器購入費用を計上する際には、その必要性についての十分な説明が求められます。

書籍の購入、旅費に突出した経費を計上するのも、研究の全体性から見て望ましくな

く、研究を支える全体諸項目へのバランスある経費計画が望まれます。巨額の論文掲載料が計上されるのも、論文掲載が研究のアウトプットに属する点から見て、好ましくありません。下に示す学会費も同様で、研究内容を構成し肉付ける実質的な調査や研究活動への支出が基本となります。また、研究計画はまとまって説得力があるのに、計画と研究経費の合理的関連性が乏しい申請は、説得力を欠きます。

予算の立て方 - 機器、学会費

一部に「初めに研究費ありき」で、研究の学問的意義を図りかねるものも散見されました。機器の購入は、基本的に研究室や大学で用意してほしいものと考えています。支出計画を作るときには、調査や研究行為の頻度や場所、所在地、個数、機器の使用、そこに行くことの必要性など、研究計画をもう一度見直し、研究計画と支出計画に整合性があるかを確認してください。支出計画で、もう一つ問題とするのは、学会参加費や学会年会費に当てる費用支出です。複数学会への参加で著しく多い学会旅費を計上している申請がありました。学会参加は、発表するとしてもそれは研究のアウトプット行為であり、「一般的な」情報収集の行動であり、研究そのものを構成し創り出す主たる活動や調査ではありません。笹川科学研究助成の人文・社会系の選考委員会では、学会参加費や学会年会費などは、投稿料も含めて、国内・海外を問わず、研究調査の支出項目としては優先度が低いものと考えています。ここでは多くの場合、研究計画に書かれている研究を深める内容と支出が一致しておらず、厳しい採点になるのは避けられません。パソコンソフトの購入も研究主題からすれば、周辺的な支出と判断します。研究内容の充実・発展そのものを形作る中心的で不可欠の研究活動への支出を堅実に組み立てていかれることをお勧めします。

以上の点を留意され、学問的意欲にみち誠実で独創的な研究申請を今後も行っていただきたいと期待します。さらに、この世界的病疫による生活様式の変化を経験中であることに注目していく必要があります。自然災害や地球環境の変化やパンデミック経験により、現在、私達のライフスタイルに様々な変容が起こり、またそれが求められているところもあります。このような新時代 - 新状況に対応した、新たな研究課題の発掘・展開にも期待したいと思います。

〔人文・社会系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
宮城県	2023-1027	波田野 悠夏	女		東北大学学際科学フロンティア研究所新領域創成研究部人間社会研究領域	助教	分野横断型の物質文化解析による日本列島南西端の島嶼文化起源の解明	1,050,000
東京都	2023-1016	伊 蒙楽	女	中国	一橋大学大学院言語社会研究科	博士後期課程5年	戦時期台湾知識人の中国叙述：汪精衛政権と満州国政権を中心に	1,150,000
	2023-1008	廖 嘉祈		香港	東京大学大学院	博士課程4年	明治維新と近世中国の政治概念－幕末日本における宋・明史受容を手がかりに－	300,000
	2023-1004	楠田 悠貴			東京大学大学院人文社会科学系研究科欧米系文化研究専攻西洋史学専門分野	博士後期課程3年	フランス革命期・ナポレオン統治期にイギリス革命史を読む、書く	800,000
	2023-1005	中束 友幸			東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻	博士後期課程6年	バイアスのある仲介者と観衆費用：スーダンを事例に	950,000
	2023-1003	根木 優気			東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻	博士後期課程1年	地方移住者は「外の人」か「地域の人」か？－ルーラル・ジェントリフィケーションの人類学	500,000
	2023-1015	長澤 文彩	女		東京藝術大学大学院音楽研究科音楽専攻音楽文化学研究領域音楽学	博士後期課程2年	中国古代編鐘の音響構造に関する研究	900,000
	2023-1014	青木 慧	女		東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学音楽学専攻	博士後期課程4年	江戸期吉原遊廓を発祥とするはやり唄の起源とその伝播にかんする研究－洒落本と随筆の記述分析を通して－	170,000
	2023-1022	山岸 哲也			東京都立大学大学院人文科学研究科社会行動学専攻社会人類学分野	博士後期課程3年	共存を促す内在的メカニズム－インド・シッキム州における混浴的な宗教実践に関する社会人類学的研究	900,000
	2023-1013	沖津 奈緒	女		杏林大学保健学部健康福祉学科	講師	「わが子の不登校」を経験した母親がウェルビーイングに至るパーソナルリカバリー	550,000
	2023-1010	岡本 孝信			学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻	博士後期課程3年	ヴァイキング侵略期イングランドの統治構造－聖職者を中心に－	960,000
	2023-1017	石井 治一			早稲田大学大学院文学研究科考古学コース	修士課程2年	日本における日越貿易品の流通と文化的影響－日本出土ベトナム無釉陶器を中心に－	510,000
	2023-1024	呉 心怡	女	中国	早稲田大学大学院文学研究科考古学コース	博士後期課程5年	東国における古墳時代終末期方墳の展開に関する考古学的研究：印旛沼周辺の方墳の測量・GPR調査から	600,000
	2023-1009	馬 歌陽	女	中国	早稲田大学大学院文学研究科美術史学コース	博士後期課程5年	南朝時代における中国の仏教美術に関する研究－5～6世紀の南渡士族による石窟造営活動に着目して	1,250,000
	2023-1028	千歩 弥生	女		中央大学大学院文学研究科社会学専攻	博士後期課程3年	ハンセン病療養所退所者のライフストーリー研究－各地域における多様な社会関係に着目して	1,050,000
	2023-1018	大熊 久貴			明治大学大学院文学研究科史学専攻考古学専修	博士後期課程2年	櫛と髪型から見る古代日本の律令体制形成過程の実態	350,000
	2023-1006	高橋 亮一			國學院大学文学部史学科	非常勤講師	大正・昭和期日本における海洋生物保護の展開－ラッコ・オットセイを中心に－	1,410,000
2023-1019	福田 隆巳			港区政策創造研究所	研究員	所得階層の移動可能性、外国人についての認知と政策選好の日西比較－オンラインサーベイ実験による検証	850,000	
神奈川県	2023-1030	朴 美子	女	中国	神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科歴史民俗資料学	博士後期課程3年	紛争処理をめぐる伝承－中国広西チワン族自治区大瑤山ヤオ族における慣習法に関する法民俗的研究	850,000
	2023-1031	李 優大			東海大学国際学部国際学科	特任講師	戦間期ソ連外交の帝政ロシア外交との歴史的連続性－ソ連・イラン関係を事例として－	650,000
京都府	2023-1021	趙 勝新		韓国	京都大学大学院経済学研究科	博士後期課程2年	現代海運業における国際分業と産業内分業の歴史的ダイナミズム 1970年代以降の世界海運業と日本海運	1,300,000

〔人文・社会系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
京都府	2023-1029	楊 慧京	女	中国	京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻	博士後期課程3年	漢字文化圏における字体の位相的研究ー日本と朝鮮半島の漢字教科書から	850,000
	2023-1032	藤田 風花	女		京都大学大学院文学研究科	非常勤講師	ヴェネツィア領キプロスのギリシア系貴族家門ネットワークー人文主義との関わりをとおしてー	330,000
	2023-1002	楊 雅韻	女	中国	京都大学大学院文学研究科現代文化学メディア文化学	博士後期課程3年	近現代日本における化粧と女／男の境界線ーイメージ・モノー	600,000
	2023-1020	辻井 敦大			立命館大学衣笠総合研究機構	専門研究員	無縁死者祭祀の歴史社会学ー合葬墓に対する公衆衛生と福祉の論理のせめぎ合いに注目して	450,000
大阪府	2023-1034	邵 金琪	女	中国	関西大学大学院文学研究科総合人文学専攻国語国文学専修	博士後期課程4年	日本近代文学における〈上海〉の表象とその文化交流に関する実証的研究	650,000
	2023-1001	加登 遼			大阪公立大学生活科学研究科居住環境学科	助教	コロナ禍を契機としたアーバン・エクソダスに着目した大都市圏周辺都市の新たな移住施策	750,000
	2023-1023	劉 書鈺		中国	関西大学大学院東アジア文化研究科文化交渉学専攻	博士後期課程2年	近世琉球における久米村士族の儒教儀礼についてー久米村の「家礼」「規模帳」を中心に	970,000
兵庫県	2023-1012	土井 冬樹			神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート	協力研究員	伝統芸能の舞台化と近代化：先住民マオリの伝統芸能大会の開催とその変遷	750,000
奈良県	2023-1007	柴原 聡一郎			(独法)国立文化財機構奈良文化財研究所	アソシエイトフェロー	ドローンレーザー測量による4世紀天皇陵の研究	850,000
山口県	2023-1025	藏田 典子	女		山口県立大学国際文化学部	講師	都市ごみから海ごみへの連環と住民意識：瀬戸内地域における環境意識調査とごみ発生動態の関係性解明	1,120,000
愛媛県	2023-1033	Utami Ami Sukma	女	インドネシア	愛媛大学連合農学研究科生物環境学専攻	ポストドクトラル研究員	インドネシア西スマトラにおける伝統的知識に基づいた持続可能な共同灌漑管理	420,000

2023 年度数物・工学系総評

数物・工学系選考委員会委員長

数物・工学系の申請課題は、宇宙・地球科学、素粒子物理学、物性物理学、材料科学、計測工学、環境科学、都市・建築工学など広範囲に跨っています。2023 年度の申請では、材料科学と計測工学の申請課題が多く、申請件数の約半数を占めており、社会の要請に対する貢献と波及効果に対する意識の強さが印象的でした。各分野での総評は下記の通りです。

- ① 宇宙・素粒子物理学分野では、素粒子理論が大半でした。レベルの高い申請課題が多く、高度な数理的知識が要求されるため、評価要素である「独創性または萌芽性」に関して独自性を出しにくい印象がありました。
- ② 物性物理学の分野では、理論と実験がほぼ同数であり、最先端の計測技術の開発や新奇な物性現象の開拓に取り組む申請課題が多く、今後の発展に期待します。
- ③ 材料科学の分野では、研究対象は多岐にわたっており、社会に対する貢献と波及効果の意識の強さが感じられました。材料科学に関する理論は少なかったですが、今後の課題として、量子情報など現在の最先端科学の動向を見据えた先導的な材料提言の申請が望まれます。
- ④ 機械工学・計測工学の分野では、身近な研究対象が多く、多様性に富んでいました。また、医工連携や異種領域での学際的研究や新規技術開発に関する優れた申請が多く、将来に向けて大いに期待します。
- ⑤ 環境科学や都市・建築工学の分野では、女性の応募者が多いことが印象的でした。また研究対象や目的が明確であり、1 年間の研究テーマとして相応しいものが多くありました。

申請者（申請時）は、学部生、大学院博士前期課程および後期課程、博士研究員、助教などに跨っていましたが、大学院生の申請者が約 80%を占めており、総じてレベルの高い申請課題が多くありました。採択されなかった申請課題でも多いに期待でき、次回の申請に期待します。

〔数物・工学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2023-2030	高野 哲秀			北海道大学大学院工学院エネルギー環境システム専攻	博士後期課程1年	複雑流体の乱流変調を明らかにする渦粘度プロファイラの開発（乱流中での運動量輸送の時空間での定量化）	970,000
	2023-2003	朱 妍卉	女	中国	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	博士研究員	普通魚群探知機の定量化ー海底面の音響反射強度を用いた普通魚群探知機の較正方法の確立ー	1,070,000
	2023-2025	廣川 雄大			北見工業大学大学院工学専攻	博士前期課程2年	燃料油の硫黄分がディーゼル排気微粒子の粒子形態に及ぼす影響の解明	1,100,000
宮城県	2023-2009	鈴木 敦詞			東北大学都市・建築学専攻	助教	大地震時の安全・『安心』を目指した使用継続性を保証する鋼構造制振設計確立への挑戦	900,000
秋田県	2023-2006	湯本 純			秋田大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程3年	離散化された球面上における格子fermionの研究	650,000
山形県	2023-2021	Billah A H M Areef		バングラデシュ	山形大学大学院電子情報工学専攻	博士後期課程2年	強誘電性のナノ光触媒を用いた水素製造システムの開発及び機構解明	930,000
茨城県	2023-2014	澤原 馨登			筑波大学大学院理工情報生命学術院数理物質科学研究群化学学位プログラム	博士課程2年	脱炭素社会に向けた“連続した高圧水素供給”のためのギ酸脱水素化用固定化錯体触媒の開発	900,000
栃木県	2023-2002	手塚 達也			宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻	博士前期課程2年	頭頸部の挙動に関するシミュレーション	250,000
	2023-2028	竹澤 くるみ	女		宇都宮大学大学院地域創生科学研究科先端融合科学専攻グローバル地域デザインプログラム	博士後期課程1年	医療・介護サービスの連携提供を実現する包括的都市計画手法に関する探索的研究	1,170,000
千葉県	2023-2022	宇治 駿			千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻	博士後期課程1年	単一電析金属ナノ粒子精密形態制御法による省電力金属析出型マルチカラー表示素子の高機能化	670,000
	2023-2018	董 書蘭		中国	東京大学生産技術研究所	特任研究員	定置網漁における可撓性浮沈システムの導入による魚群の行動制御に関する研究	1,040,000
	2023-2010	SHAO XINLEI	女	中国	東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻	博士後期課程1年	強い人為影響下にあるサンゴ礁の保全と持続可能な観光管理手法の提案ータイ国バンカオ湾を例としてー	1,200,000
東京都	2023-2034	浮田 駿			電気通信大学大学院情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻	博士後期課程2年	大気圧有機金属気相成長した酸化ガリウム透明導電膜を用いた紫外LED光出力向上に関する研究	900,000
	2023-2024	吉村 洸貴			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋システム工学専攻	博士前期課程1年	非線形振動子を用いた振動翼推進機構の開発と沿岸探査用自律航行ロボットへの応用	1,050,000
	2023-2033	山内 悠飛			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻	博士前期課程2年	アンジュレータ型潮流発電機の開発	1,280,000
	2023-2032	Huiling Mao	女	中国	東京工業大学大学院理学院物理学系	博士課程4年	カイラル反強磁性体を用いたテラヘルツスピントロニクス	1,500,000
	2023-2013	濃野 歩			東京大学大学院工学系研究科	博士課程2年	宇宙機用電気推進機の中和過程におけるプラズマ物理の解明	900,000
	2023-2004	日野 眞生			東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	博士後期課程3年	高効率2接合太陽電池の作製に向けた量子井戸太陽電池の開発と実証	900,000
	2023-2012	寺田 雄亮			東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	博士後期課程2年	太平洋の海洋中層における赤道に沿った層状循環の形成機構の解明	1,050,000
	2023-2031	三反畑 修			東京大学地震研究所	特任研究員	地震波・津波の観測および火山性地震モデルに基づく活動的海底火山の遠隔的モニタリング	1,500,000
	2023-2027	渡邊 良輔			東京農工大学大学院工学府物理システム工学専攻	博士前期課程2年	誘電体バリア放電による糖アルコールのプラズマ結晶生成メカニズムの解明	900,000

〔数物・工学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
東京都	2023-2015	石井 大地			東京都立大学大学院システムデザイン研究科機械システム工学域	博士後期課程2年	靱帯付着部荷重伝達メカニズムの解明に向けた構造-力学機能関係の検討	190,000
	2023-2019	馬 駿		中国	海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所環境・動力系環境影響評価研究グループ	主任研究員	ベンチュリ管式微細気泡生成による革新的エマルション油水分離の研究	1,120,000
	2023-2008	君塚 政文			東京都産業技術高等専門学校ものづくり工学科機械システム工学コース	助教	小型波浪観測ブイにおける評価方法の開発と最適筐体形状の解明	1,490,000
神奈川県	2023-2017	彭 彭	女	中国	横浜国立大学大学院都市イノベーション学府	博士後期課程1年	温暖地域における1920～30年代の洋風住宅の温熱環境改善手法に関する研究	730,000
	2023-2020	宮本 薫			北里大学大学院理学研究科分子科学専攻量子物理学講座	博士後期課程2年	曲面の幾何学を用いた可解な渦糸方程式の厳密解の構成	840,000
長野県	2023-2007	原 貴之			長野工業高等専門学校工学科情報エレクトロニクス系	助教	インコヒーレントデジタルホログラフイのためのリアルタイム3次元像再生計算回路の開発	960,000
京都府	2023-2016	間仁田 侑典			京都大学大学院理学研究科物理学宇宙物理学専攻	博士後期課程3年	軽質量スピン2暗黒物質の生成機構の解明および重力波望遠鏡を用いた検証	620,000
大阪府	2023-2005	小林 聖人			大阪大学サイバーメディアセンター	助教	水中における触覚・視覚情報に基づく遠隔操作型知能ロボットアームシステムの研究開発	1,240,000
兵庫県	2023-2011	竹本 真			神戸大学大学院工学研究科建築学専攻	博士後期課程2年	20世紀初頭のドイツにおける生活改善運動に関する研究ーポール・シュルツェ＝ナウムブルクに着目してー	780,000
	2023-2023	隈下 敦貴			兵庫県立大学大学院理学研究科物質科学専攻	博士後期課程1年	放射光表面X線による二次元量子系ヘリウムの吸着第一層の構造決定と新奇量子相の解明に向けた装置開発	640,000
島根県	2023-2026	Acharya Ashis		ネパール	島根大学大学院総合理工学部地球科学科	博士課程1年	分散型光ファイバーセンシングを用いた深部基盤岩内の地質水文モニタリング	800,000
長崎県	2023-2001	玉熊 佑紀			長崎大学放射線総合センター	助教	ローカルな気象場を紐解くための短寿命鉛放射性同位体の連続測定手法の開発	920,000
鹿児島県	2023-2029	佐藤 壮紀			鹿児島大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程2年	Ag-In-Yb準結晶5回軸表面におけるペンタセンの安定吸着サイトに関する第一原理計算	770,000

2023 年度化学系総評

化学系選考委員会委員長

化学系分野はこれまで物理化学・無機化学・有機化学・高分子化学・生化学の5分野に分類できる内容の申請が一般的でしたが、最近は様々な新しい研究テーマの申請が見られるようになり、従来の領域をまたがった境界領域のテーマが増えていることに加え、化学と生物および化学と物理の境界領域ならびに医科学分野との関連性が強い研究テーマなど従来の分類では整理しきれないようになってきました。そこで今年度の総評では、研究申請の内容に関して高く評価できる点、改善した方が良いと思われる点、今後さらに期待したい点に分けて示すことにしました。

「高く評価できる点」

- ・ 化学系全体の申請に占める無機化学分野への研究申請は、今年も減少傾向にありましたが、申請があった研究テーマは多岐にわたっていると同時にオリジナリティが高く、真理の探究を目指した挑戦的な内容の研究申請が多く見られました。特に、有機物や錯体を活用した種々の斬新な分析法・測定法や環境改善を目指した高機能性触媒の開発およびナノ粒子・ナノシートの精密合成法の研究などにレベルが高い申請が多く認められました。そのため、採否については本当に紙一重の差でした。今回採択に至らなかった方々は、是非さらに内容を充実させ、再チャレンジを目指してください。
- ・ バリエティに富む内容で、ケミカルバイオロジーの分野での優れた申請や、昨年も見られましたが円偏光関連の分野の申請が多く見られました。また、農学系や物理系に近い研究内容の申請もあり、今後ますます種々の分野との境界領域に位置づけられる申請が増えてくる傾向も感じられました。
- ・ 有機化学関連分野のうち、反応開拓や構造化学などの基礎有機化学の領域および非生物系の構造材料・機能材料を追究する有機機能化学の領域では、自己の見出した挙動の深掘りをする課題に加え、有機化学研究の本質とも謂える条件や構造の最適化に機械学習やデータ解析アプローチを前提とする基盤的な段階で学術領域を跨ぐハイブリッドな計画、分子の配列による特性発現手法の見直し、反応推進を光化学・電気化学的に行う「きれいな」物質変換を追究する課題、マイクロリアクターなど環境調和性の実現を目指す課題、希少遷移金属を用いない物質変換や金属代替有機分子触媒など、新たな化学の息吹が感じられました。情報科学やSDGsの知識が当然のものとなっている若い世代が、有機化

学領域の経験の量に頼るアナログ的な手法を本質的に置き換え、何でも使って合成するという慣行にとらわれずに分子ごみ削減を第一義的な人類的制約として整合的に研究展開を考えるうねりは、研究の仕方を根本的に変える有機化学・有機材料化学研究のパラダイム変換を起こす期待を抱かせるものでした。

- ・ 本年度は、独創性に満ちた良質の提案が多く見られ、評価に大変苦労しました。環境負荷の低減を目指したり、希少金属に依存しない化学を志向したりする SDGs を意識した提案が増えた点は、本年度のユニークな点と言えるかと思います。また、領域横断的な研究計画も目を引きました。研究計画も慎重に練られている提案が多く見られました。
- ・ 有機化学、生物有機化学の分野で新現象解明・新しい物質や機能創成・新反応や新分析手法の開拓などを基盤とする、優れた研究提案が多数見られ、21 世紀半ば以降の日本の科学技術先導への大きなさきがけを感じられました。研究助成に採択される件数には上限があり、採択に漏れた提案も甲乙つけ難かったことを付言しておきます。

「改善した方が良いと思われる点」

- ・ 研究費の用途に関し、設備などの備品類、旅費、または論文の投稿関係などの費用が経費全体に対して偏った割合になっている申請や文章のチェックが不十分な内容の申請などが散見されました。このような申請内容では、研究に対する計画の実施に懸念が感じられ、結果としてあまり良い評価が得られないことになりかねません。
- ・ 今回特に申請書（推薦状も含めて）に記載ミスが目立ちました。例えば、推薦者の名前が本人の名前になっていたり、推薦書が字数を超えて切れていたり、推薦書の一部が明らかに他機関への推薦書のコピペと思われるなどの推薦書のミスが見られたり、最終卒業学校に予定を書いていた、来年度の身分が今年度と同じであったり、博士後期課程で年齢が 20 歳となっているなどの誤記載がありました。やはり印象が悪くなることは否めないですので是非注意していただきたく思います。
- ・ 研究内容を盛り込みすぎていて一年の研究期間内に実施できるか、やや疑問に思える提案も散見されましたので、このような観点についても注意してください。

「今後さらに期待したい点」

- ・ 特に修士課程1年などの若い方の応募も多く、それ自体は望ましいことではありますが、どのような研究をやりたいのか、研究によってどのような夢を達成したいのかが感じ取れるような申請は残念ながらあまり多くなかったと感じました。確かに修士課程でも応募できるのが本研究助成の特色ではありますが、応募の理由にそれを強調するのではなく、このような研究によってこういうことを達成したいというように書いてもらった方がいいと思います。助教クラスの方の方がそのような点をうまく表現できているように思いましたので、若い方は是非先輩に意見を聞いてもらったかどうかと思います。
- ・ 研究テーマの具体的選定、遂行に加え申請書作成にも、一層の主体性が求められます。研究成果の発信も大切であり、筆頭著者として学術論文に公刊し、また国内外の学会などでより一層発表討論することを期待したいと思います。厳しい競争の中、本研究助成を受領された方は、今の大きな波に飲み込まれたり、研究室のプロジェクトの一部になったりしないよう、用途を明確にして活用されることを望みます。

〔化学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2023-3009	児玉 康輝			北見工業大学大学院工学研究科生産基盤工学専攻	博士後期課程3年	海水中微量元素の測定に特化した迅速・安全・簡便な前濃縮法の開発	1,080,000
宮城県	2023-3032	鈴木 龍樹			東北大学多元物質科学研究科	助教	天然の食品色素として利用する青色色材の開発	1,070,000
群馬県	2023-3025	中川原 亜依	女		群馬大学大学院理工学府物質・生命理工学教育プログラム	博士前期課程2年	1本の疎水鎖末端をフッ素化した新規部分フッ素化リン脂質シリーズの開発	770,000
千葉県	2023-3003	栗原 崇人			千葉大学国際高等研究基幹	特任助教	可視光アンテナリガンドを用いたサマリウム触媒光還元反応の開発	970,000
	2023-3010	田中 駿乃介			千葉大学大学院融合理工学府	博士後期課程2年	水素発生反応を高活性化する有機物の反応中界面構造と活性化因子解明	960,000
	2023-3001	塚田 彩友	女		東邦大学大学院理学研究科環境科学専攻	博士前期課程2年	官能基修飾型多孔性錯体結晶を用いた水環境汚染物質に対する高度な吸着分離技術の開発	1,050,000
	2023-3002	池下 雅広			日本大学生産工学部応用分子化学科	助教	円偏光燐光を示す常温液体キラル白金錯体の創成	970,000
東京都	2023-3030	河口 姫子	女		お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻	博士前期課程2年	ジベンゾヘテロピン構造を鍵としたDonor- π -Acceptor型熱活性化遅延蛍光分子の開発	510,000
	2023-3011	牧野 哲直			電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士前期課程2年	新規の六角形型DNA集合体の形成メカニズムの解明と電気伝導性の調査	770,000
	2023-3016	伊藤 広真			東京工業大学大学院物質理工学院	修士課程2年	海に眠るウラン資源開拓のためのまったく新しいウラン吸着材の開発	1,110,000
	2023-3015	山科 雅裕			東京工業大学理学院化学系	助教	ウイルスの構築原理に基づく光機能的環状集合体の開発	970,000
	2023-3014	下山 大輔			東京都立大学大学院理学研究科化学専攻	助教	高分子末端官能基化を基盤とした次世代白色発光材料の開発	1,070,000
	2023-3005	山田 孝博			昭和薬科大学医薬分子化学研究室	特任助教	タンパク質の機能制御を指向したチロシン残基選択的アミノ化法の開発	970,000
	2023-3007	松本 祥汰			昭和薬科大学大学院薬学研究科	博士課程3年	ブレンステッド酸塩基反応をもとにしたキレートフリー三価金属イオン検出法の開発	1,060,000
	2023-3020	楠木 怜奈	女		東京農業大学大学院生命科学研究所分子生命化学専攻	博士後期課程1年	有機合成化学的手法を用いたC-グリコシドエラジタンニンの生合成経路の解明	900,000
	2023-3004	小西 成樹			北里大学薬学部生薬学教室	助教	希少糖類D-アロースを有する生薬「厚朴」由来マグロシド類の全合成研究	970,000
神奈川県	2023-3006	信田 尚毅			横浜国立大学大学院工学研究院	助教	グリーンで安全な酸化反応を実現する電極メディエータの開発	970,000
	2023-3019	盛田 大輝			東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究科	助教	可視光駆動型遷移金属触媒が拓くBN芳香族化合物の直接的不斉官能基化反応	900,000
石川県	2023-3026	BAI PENGCHU	女	中国	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻	博士後期課程1年	越境輸送に伴うバイオマス燃焼生成大気汚染物質の変質機構に関する研究	1,050,000
岐阜県	2023-3023	可児 龍之介			岐阜大学工学研究科	博士課程3年	芳香環フッ素化シアニン色素を用いたCO ₂ 応答性シリコーンエラストマーの開発	900,000
	2023-3013	富田 直仁			岐阜薬科大学大学院薬学専攻	博士課程1年	カーボンニュートラルを実現する二酸化炭素の資源化	1,050,000
	2023-3012	高須 蒼生			岐阜薬科大学薬学部	助教	ESI-MSでのマイクロドロップレット反応によるポストカラム誘導体化法の基礎検討	900,000
愛知県	2023-3031	深谷 陽子	女		名古屋工業大学大学院工学研究科工学専攻生命・応用化学系プログラム	博士前期課程2年	生命科学を加速する高汎用的細胞内タンパク質阻害技術の開発	980,000
	2023-3028	海東 和麻			名古屋大学大学院情報学研究科複雑系科学専攻	特任助教	適用範囲を考慮した有機化合物の中樞神経移行性予測モデル構築	1,070,000

〔化学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
滋賀県	2023-3008	永井 邑樹			立命館大学生命科学部応用化学科	助教	分子集合によって光異性化が促進される「凝集誘起光異性化」という新概念の創出	900,000
京都府	2023-3034	徳田 駿			京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻	修士課程2年	200種類以上の分子が集積したハイエントロピー分子結晶の創成	630,000
	2023-3022	黒川 宗希			京都大学大学院薬学研究科	博士課程1年	エッジ混在型アズレン含有グラフェンナノリボンの合成法確立とその物性評価	970,000
大阪府	2023-3021	塩原 康希			大阪大学大学院基礎工学研究科物質創成専攻	博士前期課程2年	キラルな一級アミンを基盤とした網羅的な共結晶化とキラル集積構造の発生	1,500,000
	2023-3027	杉村 晴菜	女		大阪大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程1年	反芳香族アプローチによる有機近赤外発光色素の創生	610,000
	2023-3029	松瀬 瑞季			近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻	博士前期課程1年	電解発生塩基を活用する環骨格形成反応の開発	1,050,000
徳島県	2023-3018	菅野 正幸			徳島大学大学院薬学研究科創薬科学専攻	博士後期課程2年	新規二官能性触媒による分子内反応化を鍵とするアリーールボロン酸を求核種とする不斉カルボハロゲン化の開発	970,000
福岡県	2023-3024	馬場 龍之介			九州工業大学大学院情報工学府情報工学専攻	博士後期課程3年	円偏光マイクロ波照射下における不斉反応促進効果に関する速度論的分子機構の解明	1,050,000
熊本県	2023-3017	Putri Ghina Kifayah	女	インドネシア	熊本大学大学院自然科学教育部材料・応用化学専攻	修士課程2年	室温条件下での水素分離を目的とした高選択性炭素ベース非対称膜	940,000
鹿児島県	2023-3033	西村 啓矢			鹿児島大学大学院農林水産学研究科食品創成科学専攻	修士課程2年	ポリフェノール構造特性を利用した金属キレート化による機能性の評価	900,000

2023 年度生物系総評

生物系選考委員会委員長

生物系の場合、共通して生命現象を対象としていますが、アプローチが多岐にわたり、しかもそれぞれが高度に専門化してきており、さらに申請件数が極めて多数のために、採択研究が特定の分野に偏ることがないように、分野を分けて審査を行なっています。

生理・発生・分子・生化・遺伝などの分野

科学への熱意をベースに新たな研究内容を申請者が提案されたものは、エネルギー的な若さを感じさせ、将来への明るい想いを抱かせてくれるものがありました。研究室のテーマをやりつつ自ら意外に思った結果を元に新たに仮説を立てて検証しようとするものなど、ワクワクさせられるものなど、オリジナリティーの高い申請を尊重しました。所属研究室が掲げるテーマの単なる延長線上の研究内容ではなく、裾野を広げるなど自分の研究課題の位置づけを示してほしいと思います。申請書を書く場合に、主語を省略して受け身を使って記述する例が多くみられたのは残念でした。その場合、過去の研究成果が申請者本人によって得られたとは判断しづらいのです。本助成では、学生といえども、本人の興味に基づく研究を助成の対象としています。研究の面白み、きっかけとなった発見、工夫した方法などを、自分を主語としてきちんと説明することが求められると思ってください。研究経験や実績では太刀打ちできない若い方であっても、実現可能性などの制約にとらわれず大きな夢を語る事ができる特権を生かして欲しいと思います。

近年のゲノム情報の急速な集積が少なからぬ影響を与え RNA-seq や NGS などの外注に関する申請が多く、ある現象に目をつけてすぐに比較する対象同士での RNA-seq など次世代シーケンシングなどの解析に持っていくという内容も数多く見られました。申請の上限金額、経費の設定が先にありきで、残念なことに実験の外注、装置の使用料、論文投稿費用などへの支払いの必要性が論理的に説明されていない申請も数多く見られました。

純粋に自身の好奇心に基づいた、壮大で長期的な研究計画を考えてほしいと思います。研究対象が異なっても方法論が同じですと、新鮮味を感じることができず新規性という点で印象が弱いと感じました。

より生体に近い実験系で標的とする分子を可視化し、in vitro の実験では知り得ない生体内での機能を突き詰めようという提案が増えていると思います。例えば GFP 標識した分子を細胞内で発現させダイナミクスを高速・高解像度で追跡する解析、相互作用したときに初めて蛍光を発するタグを付加して機能との関連を調べる研究、オプトジェネティクスの利用、摘出全脳標本を用いた解析、生体を模倣したマイクロ流体デバイスを用いる試みなど

が組み込まれた申請内容がありました。プラズマを利用する光線力学の手法、赤外顕微鏡の開発、ラベルフリー計測が可能なイメージング技術などの提案も散見されました。生殖医療や発生工学的先端技術、初期胚発生と物理的要因など、複合的な解析方法の開発も認められ、近年の研究技術のレベルの高さが窺えました。ただ当然ながら技術が新しいということだけでなく、これらの技術で何が読み取れるのかを説明をして欲しいと思います。研究領域を超えて共同で新しい技術を開発することに踏み込むことにより、独創的な研究、更には大きなブレークスルーに繋がるものも期待したいところです。

分類・生態・農・水産などの分野

新型コロナウイルスが続いているにもかかわらず原生動物から脊椎動物まで様々な生物群を対象とした研究計画が提出されました。研究分野も分類、生態、行動、生理、発生、遺伝子制御、保全などに関する幅広いものとなっていました。日本人の男性研究者からの申請が多数を占めていますが、女性研究者や外国人の研究者からの申請も見られ、多様性が増加しているのは喜ばしいことです。また、本助成の趣旨に沿うべく、先端的な分野のみならず、基礎科学を進展させる申請も複数見受けられたのは、とても心強く思いました。

今年度の申請課題にみられた特徴を以下にあげます。1) 農学分野の申請も多く、対象も作物や園芸品種などさまざまであることから、申請された研究を礎に実用化に至れば、農業への貢献が期待できるものもありました。2) 単独の生物に注視するのではなく、菌根菌と植物の共生関係や微生物を対象とした申請、さらには腸内細菌に注目し、昆虫の種分化と植生の関係を見ようとする意欲的なテーマもありました。3) 近年は、遺伝子解析など分子生物学の分野の技術革新により、これまで難しかった希少種や侵入種の探索、形態だけでは難しい分類群の系統解析、形態の発現などのより詳細な研究も増えてきています。4) 小型データロガーでの動物行動学、もしくは定点カメラ（衛星画像）での動・植物・土地動態の研究、あるいは機械学習といった、現在のある意味主流となっている手法での研究提案が多数ありました。

採択に至った研究は、いずれも研究の視点がユニークであり、研究計画もしっかりしており、実施計画と支出計画の対応関係も明確な内容となっていました。しかし、一方で、採択に至らなかった申請については、本年度の申請内容の傾向や特徴のまとめも含め以下に留意事項を示しますので、来年度以降の申請の参考にしていただければと思います。

若い研究者の方々からの申請が多くなっていることは大変喜ばしいことです。しかし、研究経験の少ない学士、修士課程の学生の場合、申請者独自の発想ではなく、所属する研究室で実施している研究の一部を担うと思われる研究テーマ設定や研究実施計画が見られました。そのため、当人の研究者としての資質を評価する情報が限られており、せっかく素晴らしい研究計画を提出されても、実際に申請者自身の実行可能性の判定が難しいと考えられる内容がありました。また、現象の解明に長い時間を必要とする大きな研究目標は、申請者

の研究姿勢を理解するうえで大変役に立ち、歓迎しますが、本制度の助成期間が1年間なので、その間の実施内容とそれによって期待される成果との関連性をはっきり示してください。さらに、研究分野が細分化される現在、その分野での研究の重要性と申請者の持つ関心を書けているものの、本助成の場合、その申請内容が客観的に見ても価値が理解できること、少し視野を広げて異分野の人でも、その価値を理解できるような申請書の書き方が大切であると思いました。

本年度の申請に限らず、近年の申請では、生態学・農学・生物工学・行動学・系統分類学など多岐の研究において遺伝子情報を利用することが常套手段となっており、これは遺伝子解析が比較的安価に外注できるようになってきたことも大きな影響をしていると思えます。ただし、研究予算に関しては、遺伝解析の委託費用も当然必要な事項と思いますので、実際のサンプル数や、解析に必要な数であるか、きちんと研究計画との関連性の中で、予算を組み立てて欲しいと思いました。また、経費の中にサーマルサイクラーやインキュベーターなど、高額な備品の購入が含まれていた申請も散見されたのが残念でした。当分野の研究では、野外調査が研究の基礎をなすものも多く、それに関わる費用も当然必要とされるものと思います。しかし、その調査費用がどのように算出されたのか（調査計画との整合性）が分かりにくいものも多く見られました。

今年も外国の生物を研究対象にしている申請がありました。生物多様性条約の ABS (Access and Benefit-Sharing) に関わる法令遵守の必要があることは、当然のことですが、自身の研究課題において実際に生物多様性条約の ABS をどのようにクリアするか（実際には、申請時にクリアされていることが好ましいです）が示されていないものがありました。さらに、注意していただきたいのが、ABS への対応は海外におけるフィールドワークでの研究対象生物ばかりではなく、国内のペットショップから入手した（あるいは継代飼育した）生物を研究に用いる場合でも適切に対応していなければなりません。ABS に適切に対応していないと、大切な研究成果を論文として発表できなくなりますので、申請者応募者のみならず、その指導的立場の方は申請前に ABS 対応を適切に行っていただければと思います。

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2023-4060	金 翔宇		韓国	帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻	博士後期課程3年	恒温動物の白色脂肪細胞における潜在的な代謝変化と適応性—マンガリツアブタの季節誘導性代謝機能—	1,120,000
	2023-5028	福島 真意	女		帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻	博士前期課程1年	フクロウ目は真の肉食といえるか？—共生細菌から探る盲腸の機能解明—	670,000
	2023-4036	山口 翔			北海道大学大学院医学研究院細胞薬理学教室	博士研究員	摘出全脳標本を用いた概日リズム振動の観測手法の確立	970,000
	2023-4091	小南 彩夏	女		北海道大学大学院水産科学院海洋応用生命科学専攻	博士後期課程1年	水産重要種ササビノリにおける生産量拡大と地球環境改善に向けたエビジェネティックな制御機構の解明	1,120,000
	2023-4100	柴田 夏実	女		北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻資源生物学講座	修士課程1年	定置網での混獲防止を目的としたネズミイルカの間隙認知に関する再検討	960,000
	2023-4044	SINGH PRERNA	女	インド	北海道大学大学院生命科学学院生命科学専攻	博士課程4年	陸上植物における細胞極性の新たなメカニズム	970,000
	2023-5025	Fosseprez Charles		ベルギー	北海道大学電子科学研究所	ポストドクトラル研究員	複雑な空間を集団で探索する原生生物の群れ行動の研究	880,000
	2023-5040	中野 有紗	女		北海道大学北海道大学	特任助教	ハエマンサス属における正逆種間交配に由来する胚乳組織を用いた三倍性種間雑種の作出	940,000
	2023-4017	市川 晴雪			北見工業大学大学院工学専攻	博士前期課程2年	シロイヌナズナ根に適した光環境で生育する装置(Shaded-Root System)の製作と研究利用	1,020,000
青森県	2023-5055	森井 椋太			岩手大学大学院連合農学研究科地域環境創生学専攻地域資源・環境管理学連合講座(配属：弘前大学配属)	博士課程2年	クロサンショウウオにおける雄間闘争がもたらす繁殖形質の緯度勾配	630,000
	2023-5023	吉田 理見	女		弘前大学大学院農学生命科学研究科農学生命科学専攻生物学コース	修士課程2年	春植物エゾエンゴサク(ケシ科)集団内に生じる多様な葉の形態の進化生態学的背景について	880,000
宮城県	2023-4009	向井 康治朗			東北大学大学院生命科学研究所	助教	マイクロオートファジーによる自然免疫シグナルSTING経路の活性制御機構の解明	1,120,000
	2023-4008	Yoon Jeongwoong		韓国	東北大学大学院農学研究科	修士課程2年	逆遺伝学的研究による海洋二枚貝伝染性がん(BTN)起源のがん化メカニズムの解明	900,000
	2023-4073	劉 雨昕		中国	東北大学大学院農学研究科	博士前期課程2年	沿岸域の藻場における微小巻貝類の生態的特性の解明	820,000
	2023-4055	栗原 寛明			東北大学大学院農学研究科生物生産科学専攻	博士後期課程2年	集団ゲノミクスによる過去の気候変動と人間活動がハタハタ資源に与えた影響の解明と将来予測	1,040,000
	2023-4090	張磨 琉亜			東北大学大学院農学研究科生物生産科学専攻	博士後期課程2年	精子細胞特有の形態変化を制御するマンシェット(微小管集合体)分解機構の解明	600,000
	2023-4019	唐 暢		中国	東北大学大学院薬学研究科創薬科学科生命薬科学	博士後期課程3年	自然免疫の記憶におけるアデノシン経路の役割の解明	750,000
	2023-4005	村岡 勇樹			東北大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程3年	アメリカネムノキの葉の運動を駆動する温度センサーイオンチャネルSPORK2の温度感知機構の解明	1,020,000
山形県	2023-5015	高崎 日向子	女		山形大学大学院農学研究科	修士課程2年	多雪地における在来および外来中型食肉目5種の種間関係とその季節変化の解明	810,000
茨城県	2023-5039	西間庭 恵子	女		筑波大学大学院(連携：国立科学博物館)生命環境科学研究科生物科学専攻	博士後期課程5年	ハクジラ類とカバ科の顔面神経と表情筋の肉眼所見からせまるクジラ類の水生活適応の検討	950,000
	2023-5010	松代 雄太			筑波大学大学院生命地球科学研究学群環境科学学位プログラム	修士課程2年	鈦山集積場の植生遷移を促進するススキにおける内生菌が関与した耐性機構の解明	590,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
茨城県	2023-4082	大枝 亮			筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士後期課程1年	日本沿岸に漂着した鯨類の消化管内から検出される海洋プラスチックの影響評価	970,000
	2023-4092	高野 季樹			筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士前期課程2年	DNAメタバーコーディングを用いた仔魚の食性分析と沿岸域における微細藻類の一次生産者としての役割	890,000
	2023-5024	青木 大地			筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士前期課程2年	海産単細胞性藻類クロララクニオン藻のモデル生物化の試み	960,000
	2023-5006	中嶋 梨花	女		筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物資源学科学学位プログラム	博士前期課程1年	細胞質雄性不稔性ジャガイモ品種の稔性回復	950,000
	2023-4108	勝木 希			筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物農学学位プログラム	博士後期課程3年	最も古くて新しいフラビン依存性芳香族水酸化酵素の触媒機構の解明	270,000
	2023-4062	水越 かのん	女		筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群農学学位プログラム	博士後期課程1年	海鳥の営巣が海洋島生物群集に与える影響－植物と節足動物を中心に－	640,000
	2023-5029	平野 日向			東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学専攻	博士後期課程1年	フェノール成分を指標とした日本産イワベンケイ属における地理的変異および環境適応機構の解明	600,000
	2023-4064	手良村 知功			産業技術総合研究所地質情報研究部門	特別研究員	DNAバーコーディングと環境DNA解析による深海性魚類の仔稚魚が沿岸に大量接岸する要因の究明	970,000
	2023-4007	小川 伸一郎			農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門食肉用家畜研究領域食肉用家畜モデル化グループ	研究員	ゲノム情報を活用した黒毛和種における新規形質の効率的な改良手法の開発	270,000
栃木県	2023-4031	正木 亜嘉理	女		宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻	博士前期課程2年	フタヅノクンショウモにおける群体の細胞数変化の温度依存性メカニズムの解明	710,000
群馬県	2023-4097	小澤 光莉			東洋大学大学院生命科学部研究科生命科学専攻	博士後期課程2年	繁殖中および繁殖終了直後の海鳥における生態学的・生物学的な重要海域の特定	1,120,000
埼玉県	2023-4014	高橋 大輔			埼玉大学大学院理工学研究科	助教	Selaginella属植物の高い乾燥耐性に寄与する細胞壁コンポーネントの解明	1,120,000
	2023-4038	安田 楓			埼玉大学大学院理工学研究科生命科学専攻生体制御プログラム	修士課程2年	脊椎動物胚での脊髄伸長を担う胚後端・尾芽領域での神経発生制御機構の解明	730,000
	2023-4083	飛田 彩乃	女		埼玉大学大学院理工学研究科生命科学専攻生体制御学PG	博士前期課程1年	小脳・延髄領域の部域化と神経発生を支配するgbx遺伝子の発現制御に関するゲノム編集技術による解析	1,040,000
	2023-4047	大内 彩子	女		理化学研究所脳神経科学研究センター	特別研究員	海馬－嗅内皮質回路において未来の経路情報を表現する神経メカニズムの解明	1,120,000
千葉県	2023-4003	村上 千明			千葉大学国際高等研究基幹	特任助教	新タイプの哺乳類ホスホリパーゼC酵素群の発見と機能解析－ジアシルグリセロール代謝の新機軸－	1,040,000
	2023-5038	福井 千海			千葉大学大学院融合理工学府基幹工学専攻機械工学コース	博士後期課程1年	匂いブルームの時間・空間的に高分解能な構造解析に基づいた飛翔昆虫の3次元匂い源探索アルゴリズムの解明	980,000
	2023-5045	石井 和			千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻生物学コース	博士前期課程1年	高山生態系を駆動するアブラムシ集団の動態を解明する	890,000
	2023-5051	浜道 凱也			千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻生物学コース	博士前期課程2年	種内・種間での形質変異が群れ内での個体間相互作用と個体の利益に与える影響	580,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
千葉県	2023-4027	福家 真帆	女		東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	修士課程2年	内温性形成がクロマグロ若魚における代謝速度の水温依存性に与える影響の評価	780,000
	2023-4089	河合 萌	女		東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	博士後期課程2年	海草・海藻類の分布量に応じたアオウミガメの採餌生態の解明	1,300,000
	2023-4072	川野 真依	女		東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	博士後期課程1年	胎生エイ類はなぜ胚休眠を行うのか：新規モデル生物ウチワザメの確立と胚休眠メカニズムの研究	1,200,000
	2023-4067	亀井 遥香	女		東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻大気海洋研究所	修士課程2年	北西太平洋の深海に生息するアオビクニンおよびサケビクニンの地理的分布と交雑に関する研究	400,000
	2023-5009	廣野 由奈	女		東邦大学大学院理学研究科生物学専攻	博士前期課程2年	レンゲツツジの毒性成分は花蜜微生物のフィルター機構として機能しているのか	680,000
	2023-4049	永田 健斗			量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所放射線影響研究部	研究員	乳腺上皮細胞の異常分化を通じた乳腺発がんのメカニズム解明	1,040,000
	2023-5021	花輪 万智	女		放送大学大学院文化科学研究科	博士後期課程2年	都市緑地において池の有無が昆虫食鳥類の生態にどのようにかかわっているか	500,000
東京都	2023-4001	橋本 恵	女		お茶の水女子大学お茶大アカデミック・プロダクション	特任助教	多様な認知症マウス系統オミクスデータから探る老化認知障害誘発機構	930,000
	2023-4048	RZEPECKA NATALIA JULIA	女	ポーランド	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士後期課程3年	ゴルジ体/TGNに局在するシロイヌナズナの新規タンパク質ファミリーの機能の解明	750,000
	2023-4012	石川 舞結	女		お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程2年	サンゴ幼生の着生行動を誘発する海底岩盤上のバクテリアの特定	450,000
	2023-4032	加登 文乃	女		お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻	博士前期課程2年	無性生殖個体群は独立種と認められるか？-紅藻イカノアシに近縁な無性生殖個体群の場合-	820,000
	2023-5050	毛利 陽香	女		お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻生命科学コース	博士前期課程1年	日本産タンポポ属植物における網状進化の解明：交雑と倍数化は多様化にどう影響したか？	620,000
	2023-5002	Azerigyik Faustus Akankperiwen		ガーナ	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	博士課程4年	日本で散発的流行を起こすグタウイルスの媒介蚊種の特定とその伝播特性を支える分子基盤の解明	930,000
	2023-4037	金 成学		中国	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子発生・口腔組織学分野	博士課程4年	多様な細胞が協調して達成される頭蓋形成のメカニズムの解明	900,000
	2023-4041	山下 龍之丞			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究院海洋資源環境学専攻	博士前期課程1年	磯浜海岸の間隙生物群集の構造を規定する環境要因の特定	990,000
	2023-5008	長澤 竜樹			東京工業大学生命理工学院生命理工学系	助教	複雑な嗅覚処理に寄与する保存的な遺伝子の転写制御メカニズムの解明	1,040,000
	2023-4040	中川 沙弥	女		東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカル情報生命専攻	博士後期課程2年	精巢特異的なプロモドメインの役割と遺伝子発現制御機構の解明	930,000
	2023-4039	朝鍋 遥	女		東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻	修士課程1年	アメンボ類の塩水適応形質の特定および進化史の解明	1,110,000
	2023-4087	大滝 志郎			東京大学大学院農学生命科学研究科	修士課程2年	森林由来有機成分が水圏生物に及ぼす影響に関する研究	590,000
	2023-4016	陸 鵬		中国	東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻	助教	海洋ビブリオ属細菌の鉄捕捉タンパク質の構造機能解析及び鉄制限を用いる抗菌剤探索	900,000
	2023-4026	浜中 祐弥			東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻	博士後期課程1年	麹菌の同じ株どうしのコロニー間における増殖抑制現象を制御する因子の探索	860,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
東京都	2023-4085	劉 宇琪	女	中国	東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	博士後期課程1年	パーキンサス属原虫が示す環境応答機構の細胞生物学的研究	990,000
	2023-5019	鎌田 周一			東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	修士課程2年	ハチ目の行動進化と関連するキノコ体複雑化の分子基盤を探る	720,000
	2023-5017	中村 駿志			東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	特任研究員	一葉植物モノフィレアを対象とした実験系の確立～1枚の子葉が大きくなり続ける分子機構に迫る～	1,040,000
	2023-4046	河野 恵美	女		東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	博士後期課程1年	新規Nitrospirota門細菌の多系統比較解析による好気環境適応進化の解明	900,000
	2023-5047	長井 聡道			東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	博士前期課程2年	関東山地における半地下棲・地下棲クモの極めて高い種多様性を白日の下に晒す～ホラヒメグモ類を例として～	230,000
	2023-4105	内田 吉美	女		昭和薬科大学	特任助教	Smad1/5シグナルが担う腸管組織の分化および恒常性維持機構の解明	1,040,000
	2023-4065	池田 秀斗			早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻	修士課程2年	シングルセル観察で紐解くアンモニア酸化細菌の難培養性の要因～培養可能条件下では全細胞が増殖するのか～	750,000
	2023-4028	我妻 竜太			早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻	博士後期課程2年	ウイルス1粒子ゲノム情報の新規解析手法の開発とそれを用いた海洋ウイルス間における遺伝子フローの解明	1,500,000
	2023-4068	安田 直也			東京農業大学大学院国際食料農業科学研究科国際食農科学専攻	博士後期課程1年	培養細胞を用いたビタミンK2によるアポトーシス誘導の分子機構の解析	700,000
	2023-5053	寺井 水萌	女		東京農業大学大学院地域環境科学研究科林学専攻森林生態学研究室	博士前期課程2年	温帯山地の標高傾度に沿った菌根菌糸の生産と呼吸速度の変化	960,000
神奈川県	2023-5054	松本 幸	女		横浜国立大学大学院横浜国立大学大学院	博士前期課程2年	着生菌類と宿主動物は共に種分化してきたか	440,000
	2023-5037	中西 博亮			横浜国立大学大学院環境情報学府自然環境専攻	博士前期課程2年	雪氷藻類に寄生する新規ツボカビ3系統の生活史戦略の解明	980,000
	2023-4029	田原 将初			横浜国立大学大学院環境情報研究院自然環境専攻	博士前期課程2年	マリンスノーの形成と崩壊に関与する海洋菌類の多様性解明	870,000
	2023-4030	宇田川 澄生			東京大学理学系研究科生物科学専攻	客員研究員	棘皮動物の幼生において五放射相称パターンを決定する遺伝子の同定とその保存性の検証	1,490,000
	2023-4025	菊地 杏美香	女		横浜市立大学大学院生命医科学研究科生命医科学専攻	博士前期課程2年	DNA維持メチル化酵素DNMT1の活性化機構の構造生物学的解明	960,000
	2023-5034	小原 晶奈	女		神奈川大学大学院理学研究科理学専攻	修士課程1年	阿寒湖の結氷期間の短縮による低温・強光環境はマリモを損傷するか	880,000
	2023-4061	青田 幸大			東京農業大学大学院農学研究科生物資源開発学専攻	修士課程2年	鯨類の睡眠戦略に熱損失が及ぼす影響	1,020,000
	2023-4022	副島 晴希			北里大学大学院海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻	修士課程2年	寄生虫Heterobothrium okamotoiの血液凝固反応抑制機構の解明	960,000
	2023-4056	宮木 直			北里大学大学院海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻	修士課程2年	マダイPagrus majorのメラノマクロファージセンターにおけるケモカインCCL20の機能	890,000
	2023-5049	鮫島 啓太			北里大学大学院海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻	博士後期課程1年	魚類の卵形成過程におけるグリコーゲンの役割	530,000
	2023-4034	松本 直也			麻布大学獣医学部獣医学科臨床診断学研究室	研究生	無麻酔CT撮影によるペンギンのアスペルギルス症の早期診断に関する研究	370,000
長野県	2023-5004	松浦 匠			信州大学大学院総合理工学研究科	修士課程2年	クチナガオオアブラムシにおける季節的な利用植物変化の獲得過程の検証	1,010,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
新潟県	2023-5027	藤田 健			新潟大学大学院自然科学研究科環境科学専攻	博士前期課程2年	佐渡島におけるモリアオガエルのニッチ拡大に基づく形質的な変化とその要因	750,000
富山県	2023-4084	西部 太喜			富山大学大学院理工学研究科理工学専攻	修士課程2年	脊椎動物に共通したストレス応答の中核メカニズムの解明	840,000
福井県	2023-4088	倉賀野 真央	女		福井県立大学大学院生物資源学専攻	修士課程2年	海底湧水が宮津湾内の二枚貝養殖場の一次生産に及ぼす影響の評価	550,000
岐阜県	2023-5042	小池 圭太郎			岐阜大学大学院連合農学研究科	博士後期課程1年	超アルミニウム耐性植物の茶樹におけるリン栄養の生体内リサイクルを生体膜脂質のリモデリングから説明する	820,000
	2023-4110	江口 博晶			岐阜薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻	博士後期課程3年	がん悪性化の予防効果をもつプラズマ製品の開発	900,000
静岡県	2023-5044	矢部 りさ	女		静岡大学大学院総合科学技術研究科理学専攻生物学コース	修士課程2年	ニホンアマガエルの凍結耐性の内分泌学的な調節機構の解明	750,000
	2023-4071	伊藤 武留			筑波大学大学院生命地球科学研究群生物学学位プログラム	博士前期課程2年	沿岸域における海藻の溶存態有機物生産の群集レベルでの定量	820,000
	2023-4033	清水 聡史			静岡県立大学薬学部	助教	心臓におけるトランスポーターの性腺・性染色体の影響を区別した網羅的性差解析	900,000
愛知県	2023-4045	中村 凜子	女		総合研究大学院大学生命科学研究科基礎生物学専攻	博士後期課程2年	ヒストンメチル化酵素Clr4の活性制御機構の解明	570,000
	2023-5031	杉山 響己			名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻	博士前期課程2年	長寿命海鳥における加齢に伴う採餌戦略の変化	890,000
	2023-4063	前田 明里	女		名古屋大学大学院生命農学研究科応用生命科学専攻	博士後期課程2年	概日時計が温度に抵抗性を持つしくみ	970,000
	2023-5005	勝浦 柊	女		名古屋大学大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻	博士後期課程2年	カンボジア熱帯季節林における樹木の吸水深度特性の解明—気候変動に対する樹木の応答予測を目指して—	1,120,000
	2023-4074	廣瀬 匠悟			名城大学大学院農学研究科農学専攻	博士後期課程2年	接ぎ木法を用いたバジルの香気成分オイゲノールの長距離輸送様式の解明とその利用	970,000
	2023-4004	KIM Eunchul		韓国	自然科学研究機構基礎生物学研究所環境光生物学研究部門	助教	革新的な分析法の構築を通じた植物における光防御機構「スピルオーバー」の解明	1,120,000
三重県	2023-4099	柴 航太朗			三重大学大学院生物資源学研究科資源循環学専攻	博士前期課程2年	光合成と菌寄生の両方で炭素を獲得する混合栄養植物は根分泌物を土壤に放出して有益細菌を誘引するのかわ？	960,000
滋賀県	2023-5035	佐々木 陽依	女		京都大学大学院理学研究科生物科学専攻植物学系	修士課程1年	樹木における側脈タイプの進化動態とその駆動要因の解明	1,040,000
	2023-5052	中西 勇太			京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生態学研究センター	修士課程2年	降湖型サツキマスにおける多様な生活史維持機構の解明：なぜ降湖型で見られない生活史が出現し維持されるか	1,040,000
	2023-4043	青山 雄貴			滋賀県立大学大学院環境科学研究科環境動態学専攻	修士課程2年	地ビール副産物を活用した機能性卵の生産技術開発	710,000
	2023-4006	堀 翔悟			長浜バイオ大学バイオサイエンス学部メディカルバイオサイエンス研究科	助手	侵害センサーTRPV1の高温感受性を決定する四肢動物共通のメカニズムの解明	940,000
	2023-4106	北村 穂乃香	女		長浜バイオ大学大学院バイオサイエンス研究科	短期研究従事者	2細胞期様細胞に含まれる真の全能性を有する重集団の同定	900,000
	2023-4023	山本 千愛	女		立命館大学生命科学部生物工学科	助教	植物の精子鞭毛運動におけるシグナル伝達機構の解明	1,030,000
	2023-4111	豊竹 洋佑			立命館大学生命科学部生物工学科	助教	ホスファチジルコリンによる生体膜機能発現メカニズムの解明	1,120,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
京都府	2023-5003	中村 亮介			京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	二次遷移にともなう森林ケイ素循環の変化：冷温帯から亜熱帯にかけての包括的解明	960,000
	2023-4096	廣内 大成			京都大学医学研究科	特定研究員	マイクロ流体デバイスを用いたLTPのシナプス特異性維持の再構成	1,120,000
	2023-4076	Meng Lingjie		中国	京都大学化学研究所	特定研究員	新門を形成する未培養海洋ウイルスーミラスウイルスーの宿主同定と単離	1,300,000
	2023-4010	大波 千恵子	女		京都大学大学院人間・環境学研究科環境学専攻	修士課程2年	サンゴ骨格内に共生する藻類はどのように光合成を行っているのかー褐虫藻以外のサンゴ共生藻類の光捕集戦略	850,000
	2023-5026	高屋 浩介			京都大学大学院農学研究科	博士後期課程3年	深層学習で挑む新たな個体及び交雑種判別手法：情報科学と野外調査でオオサンショウウオの保全に貢献する	1,030,000
	2023-4059	原 里英	女		京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻	博士後期課程1年	メダカにおける腹椎数決定遺伝子の同定	810,000
	2023-4066	中川 こづえ	女		京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻	博士前期課程2年	ブランド水産物の成長率と生残率を最大化する養殖適地の迅速推定手法の開発	1,300,000
	2023-4042	水上 知佳	女		京都大学大学院農学研究科森林科学専攻	博士後期課程1年	細根からの多様なホスファターゼ分泌による樹木のリン獲得適応機構の解明	550,000
	2023-5016	中村 直人			京都大学大学院農学研究科森林科学専攻	博士後期課程3年	植物病原性微生物の進化が駆動する外来植物の侵略に関する研究	1,100,000
	2023-5007	池田 颯希			京都大学大学院理学研究科	修士課程1年	コケ食ダニの多様性と進化：コケ食の起源と寄主利用パターンの究明	620,000
	2023-4103	村上 吉朗			京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程2年	酵母における温度依存的な転写開始点変化に必要な新規因子の同定	840,000
	2023-4102	李 何萍	女	中国	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士後期課程2年	北海道周辺海域の環境変動に対する回遊性鰭脚類の生息地利用特徴及び差異	1,180,000
	2023-4095	中田 里奈穂	女		同志社大学大学院脳科学研究科発達加齢脳専攻	博士後期課程2年	タウンバク質の臨期期からなる軸索局在メカニズムの解明	670,000
大阪府	2023-4050	堀 望美	女		大阪大学大学院生命機能研究科生命機能専攻	一貫制博士課程3年	皮膚細菌による細胞老化を介した創傷治癒遅延機構の解明	970,000
	2023-4077	中井 慎也			大阪公立大学大学院医学研究科基礎医科学専攻	博士課程2年	空間探索のための海馬体→脳梁膨大後部皮質における情報伝達機構の解明	820,000
	2023-4107	松本 朋子	女		大阪公立大学大学院農学研究科応用生物科学	博士後期課程1年	植物の細胞核におけるアクチン脱重合因子の機能解析	880,000
	2023-5014	羽田野 凌矢			大阪公立大学大学院理学研究科生物学専攻	博士前期課程2年	カワゴケソウ科の根の機能分化に関する研究	100,000
	2023-5013	近藤 湧生			大阪公立大学理学研究科生物学科	特任助教	メダカの学校はどうやってできる？ミナミメダカにおける「群れ」の形成過程の解明	810,000
兵庫県	2023-5048	川原 優人			兵庫県立大学大学院環境人間学研究科共生博物部門	博士前期課程2年	日本最西端に位置する与那国島のヤモリ属 (Gekko) 個体群の種の帰属に関する研究	590,000
	2023-4015	日向 大智			関西学院大学大学院理工学研究科生命医化学専攻	博士後期課程2年	RFFLを標的とした嚢胞性線維症に対する核酸医薬品の開発	940,000
	2023-4018	加藤 壮一郎			理化学研究所生命機能科学研究センター	研究パートタイマー	初期胚の伸長システムの幾何学的制約に対する頑強性と可塑性	1,110,000
	2023-4086	大町 紘平			理化学研究所生命機能科学研究センター	研究員	毛包幹細胞の運命制御と組織恒常性における「幹細胞ー基底膜」相互作用の役割の解明	750,000
奈良県	2023-5043	原 直子	女		奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科化学生物環境学専攻	博士前期課程2年	濾過食者シマトビケラの生態機能を定量評価する：ダム下流域における浄化機能を最大化する川作りを目指して	740,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
奈良県	2023-5018	小林 利紗	女		奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術科先端科学技術専攻	博士後期課程3年	アブラナ科植物の優劣性制御因子における保存性と多様性の解明	970,000
鳥取県	2023-5041	HU RICHA		中国	鳥取大学大学院連合農学研究科国際乾燥地科学専攻	博士後期課程4年	モンゴルの乾燥地草原における降水パターンが草原生産性および飼料価値に与える影響	810,000
島根県	2023-4098	加嶋 広武			島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻生命科学コース	修士課程2年	スタウナギ嗅覚受容体の発現パターンの解明および機能解析	420,000
岡山県	2023-4070	古谷 優治			岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科バイオ・創薬部門	博士前期課程1年	熱ストレス依存的に形成される核内ストレス顆粒形成のカルシウムイオンシグナル伝達機構解明	1,030,000
	2023-4075	関口 学			岡山大学大学院自然科学研究科地球生命物質科学専攻	博士課程2年	脳をもたないヒドラの睡眠中枢の探索	970,000
	2023-4101	稲葉 勇人			岡山理科大学大学院総合情報研究科数理・環境システム専攻	博士後期課程2年	ティラノサウルス類の残存タンパク質の多角的解析から確立する、信頼性が高い化石タンパク質の検出方法	740,000
広島県	2023-4093	山根 慶大			広島大学大学院医系科学研究科	博士課程2年	Epstein-Barrウイルス分子LMP1の固形がん免疫監視誘導作用の解明	900,000
	2023-4058	吉田 真菜	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士後期課程1年	エピジェネティック制御を介した器官再生プログラム活性化機構の解明	730,000
	2023-4021	高山 なつ美	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士前期課程1年	オグロトラギスにおける巣の機能解明とその適応的意義について	140,000
	2023-5032	浅枝 優花	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻生命医科学プログラム	修士課程2年	温泉への適応に関わる種をまたいだ遺伝的変異の探索	960,000
山口県	2023-4109	田原 京佳	女		山口大学大学院創成科学研究科ライフサイエンス系専攻	博士後期課程1年	青色光に応答した気孔開口におけるBLUS1結合因子の機能解析	900,000
徳島県	2023-4011	加藤 遼			徳島大学ポストLEDフォトニクス研究所	特任助教	細胞内分子ダイナミクスを可視化するラベルフリー超解像赤外顕微鏡の開発	820,000
高知県	2023-5001	寺山 佳奈	女		高知大学	短期研究員	測位頻度と調査期間が野生哺乳類の行動圏に与える影響	250,000
	2023-4054	舘田 宇宙			高知大学大学院総合人間自然科学研究科農林海洋科学専攻	修士課程1年	植物病原細菌-青枯病菌の病原性制御を司るクオラムセンシングの二価鉄依存的な制御メカニズムの解明	820,000
	2023-4057	李 月軒	女	中国	高知大学大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻	修士課程1年	海産無脊椎動物に存在するD-アラニン合成酵素の探索	840,000
	2023-4080	山口 永晏			高知大学大学院総合人間自然科学研究科理工学専攻生物科学コース	修士課程2年	高知海岸における砂浜環境の現況とアカウミガメの産卵可能範囲の把握	790,000
福岡県	2023-5022	朴 鎮亨		韓国	九州大学生物資源環境科学府資源生物科学専攻昆虫学分野	修士課程2年	日本産ヒロズコガ上科Tineoideaの分類と腸内細菌叢解析を用いた食性多様化様式の解明	970,000
	2023-4079	吉田 陽香	女		九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻	修士課程1年	日本近海に生息するクマノミをモデルとした熱帯性海水魚の北方適応機構	1,270,000
	2023-4078	八尋 逸清			九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻海洋生物学研究室	博士後期課程3年	SDF-1/CXCR4シグナルを用いた、簡便かつ高汎用的不妊化技術の開発	1,030,000
	2023-5011	橋爪 拓斗			九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻昆虫学分野	修士課程2年	日本産ムネクボハネカクシ亜族（甲虫目：ハネカクシ科）の分類学的・系統学的研究	650,000
	2023-5012	阿部 純大			九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻昆虫学分野	修士課程2年	日本産Cryptoserphini族（ハチ目：シリボソクロバチ科）における分類学的再検討と分子系統推定	440,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
福岡県	2023-5036	ORREGO MORAL ES MARLY	女	ペルー	九州大学大学院農学部生物資源環境学科	博士課程3年	タケ類の細根の分枝構造に対応した化学的、形態的特性がリターの分解過程に及ぼす影響	470,000
	2023-4035	隅谷 和樹			北九州市立大学大学院国際環境工学研究科環境システム専攻バイオシステムコース	博士後期課程3年	多糖核酸複合体による薬剤送達を利用したCTL誘導・腫瘍内免疫抑制解除システムの創出	900,000
長崎県	2023-4081	草場 友貴			長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	博士前期課程1年	生物装着型ロガーを用いたペンギンの獲物追跡戦略の解明	610,000
	2023-4069	大竹 郁花	女		長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	博士前期課程2年	若いオスに注目したマッコウクジラの潜水行動調査：潜水データと鳴音データの統合解析による行動生態の解明	1,500,000
	2023-4094	濱田 翔太			長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科水産学専攻	博士前期課程1年	海洋における天然交雑の発生源機構：ヒラマサとブリの交雑をモデルとして	900,000
	2023-5046	富永 悠太			長崎大学大学院水産環境科学総合研究科水産学専攻	博士前期課程2年	塩分濃度変化に対するスズキの代謝率変化 – スズキはなぜ河川に侵入するか？ –	460,000
佐賀県	2023-4020	中島 菜々子	女		佐賀大学大学院生物資源化学専攻生命機能科学コース	修士課程2年	海洋最重要基礎生産者である珪藻に感染するウイルスを対象とした改変ウイルス作成技術の開発	880,000
熊本県	2023-4013	石川 瑞徳	女		熊本大学国際先端医学研究機構皮膚再生・老化学講座	特定事業研究員	「幹細胞ニッチ」としての血管：血管を介した表皮幹細胞制御メカニズムの解明	1,500,000
宮崎県	2023-4024	北脇 耕平			宮崎大学大学院農学研究科農学専攻植物生産環境科学コース	修士課程2年	ナフトキノン類による植物の低温シグナル伝達制御機構の解明	1,030,000
鹿児島県	2023-5020	吉川 晟弘			鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室	特任研究員	放射相称動物の「方向性を示す行動」に関わる分子機構の解明 – イソギンチャクに「前」はあるのか？ –	1,110,000
	2023-4104	出羽 優風	女		鹿児島大学大学院農林水産学研究科	修士課程2年	インド・西太平洋の温帯から熱帯域に生息するヘビギンボ属魚類の多様性評価	970,000
沖縄県	2023-4053	落合 佳樹			沖縄科学技術大学院大学科学技術研究科科学技術専攻	一貫制博士課程4年	RNA標識酵素の創製を目指したRNAメチル化酵素の新規進化分子工手法の開発	820,000
	2023-4052	Dirgantara D io		インドネシア	琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士後期課程2年	プラスチック-微生物によるサンゴへの影響	1,000,000
	2023-5033	深草 彩子	女		琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻	博士前期課程2年	大東諸島における単為生殖種オガサワラヤモリの遺伝的多様性の創出・維持機構の解明	1,100,000
	2023-4051	川島 董	女		琉球大学理学部海洋自然科学科生物系	博士研究員	錯視から解き明かすタコの脳内情報処理機構	1,000,000

2023 年度複合系総評

複合系選考委員会委員長

ようやく、コロナ感染が収束し、落ち着いた研究環境がもどったのは、うれしい限りです。今年度も、意欲的な研究計画が、多数、申請されました。複合系にも、いろいろな分野があり、分野を分担して、審査を行います。各分野の総評を以下に記します。

生物分野

極域科学から医学、応用工学的な幅の広い分野からの応募があり、申請の相互比較が難しい側面がありました。現在の地球環境の問題解決に迫ろうとする研究、ユニークな着想の申請もありましたが、研究の進展させ方に少々難を感じる場所があり、採択に至らなかった課題が複数ありました。残念に感じる一方、現在主流の分析・解析手法を適用した研究には、申請者自身の解明したい科学（哲学）上の目的が希薄となってしまっているものも見受けられました。

化学分野

複合系の申請の中で化学に関連するものは、生体成分の機能の計測法やその制御・活用などを取り上げるものが多く、昨年の申請と比較すると、ますます深化していることが認められます。取り上げられている生体成分は、ペプチド、タンパク質、酵素、DNAから細胞まで多彩です。生体成分絡みの複合系を取り上げる申請書の年齢を見ると、20代半ばがほぼ半数を占め、若手研究者のこの分野への関心の強さがうかがえます。

なお、「化学を通して生体機能の制御に関する研究」の分野の申請の理解の深さは、申請者が属する研究機関・研究組織のスケールや研究者の層の厚さなどに大きく依存します。若手申請者の中には、指導研究者の指示をうのみにして研究する者がいることが気になります。

看護分野

本年度の応募研究は、科学の王道であるロイヤルサイエンスの手法に基づき、過去の研究実績を基盤とし新たな事象を究明しようとするものと、一方で個別の人間生活の複雑な行動的側面を一般化しようとするものに分かれていました。後者の研究計画は、荒っぽいですが、未来志向の研究を思わせる新鮮さやオリジナリティーを強く感じました。審査結果は、科学の王道に沿った研究に軍配が上がりました。生活する人間を対象とした研究は、斬新で興味深い仮説が存在する一方で、一般化しにくく、計画の完成度においてもマイナス面が多いのです。しかし、社会生活者として複雑で個別性の高い人間を対象とする研究においては、未

開拓の部分が多く、新たな研究手法の確立が進められることの重要性を強く感じました。単にユニークで新規性を感じるのみでなく、それらの研究も新たな分析手法が確立され、目に見える形で評価されることになるでしょう。科学のパラダイムの変曲点に臨んで、今回残念な結果になった若手研究者の方々には、現在のテーマの先進性を忘れずに、未来に向けた新時代の道行きとなる研究に結び付けられるという信念を貫いてほしいと思います。

地球科学分野

研究の分析結果や解析結果がどのような意味を持つものか、申請書の中で十分に解説されてないものが散見されます。何のための「分析・解析」なのか、「分析のための分析」になっていないのか、もう一度振り返ってほしいと思います。分野を異にする人が読んでも伝わるような、広い視野に立った研究の意義の解説は、申請書原稿に留まらず、研究全般において重要です。今後研究成果があがったときにも、このようなことを心掛けて社会に発信してほしいと思います。

人間科学分野

複合系への研究申請にも、基礎生命科学や生物学の基盤が求められます。細胞が生命の単位であり、多細胞生物では、自らの生きる環境を細胞外マトリックス分泌により構築します。さらに、自分が取り組む研究課題が生命現象を解き明かすものであるなら、生物現象を解明するときの基本的な要点としての生命を生んだ場である1Gの地球重力、地球自身の自転と太陽との関係から生まれる時間を考える必要があります。前者では研究が遅れているメカニカル応答する細胞・個体（身体）システムを背景として考える必要があります。人は多細胞・脊椎動物です。他の動物と何か異なるのか考えた上で、申請書を作成してほしいと思います。

かなり前から理学療法学からの申請が増えています。理学療法は、理学療法を必要としている患者を治療しますが、患者が自ら適切な運動をする必要があります、運動は筋骨格系のみならず脳神経系と連動します。しかも運動は随意筋である骨格筋の収縮が必要なので、本人が自ら行うのが基本です。その運動の中核となる要点はバランスであるのは、1Gの重力場で生まれたシステムであり、とくに人は直立二足歩行を進化させたので、そのアンバランスは各種関節症を引き起こすのみならず転倒問題にもつながっています。しかし、120年までの寿命があるという人に対する基本的な教育がなされていません。人は、動ける限り、自身の姿勢や運動には気をつける動機がありません。五感により外界を認知して行動しますが、実は骨格筋も腱も感覚神経細胞による制御系をもっているのです。鍛えることができるはずで、学校教育の見直しと、そのための研究が必須だと思います。今回の申請で内的焦点と外的焦点による立位バランスと脳波の違いを見る課題や、他動的脳内運動イメージを、本人が増強するための方法開発に挑戦する研究がありました。どのような研究結果を得るのか、期待したいと思います。本来、日本には、武術や武道が盛んで、身心を一体化するスキルがあり

ます。しかし、そのような研究課題をまだみたことがないのは残念です。さらには、メカノバイオロジーの研究が進み、細胞のみ、あるいは細胞の動的な挙動を医学につなげる研究はありますが、これも身体や運動とつなげる研究は本当に遅れています。笹川科学研究助成に、挑戦的な課題が応募されることを期待したいと思います。

その他の分野

人体の特定の生理現象を定量的に測定する方法の開発に関わる研究テーマに対する申請が多数ありました。その多くは、病気や医学に関係するものです。複合系のテーマとして適当であるかどうか、やや疑問に思いました。確かに、生理学や医学と、工学は、異質なものです。その意味で、測定装置の開発は「複合系」といえなくもありませんが、そのように考えれば、「病気の治療」の多くは複合系になってしまいます。

医学関連の研究は、大学の研究室ごとに、研究テーマがかなり細分化されています。そのため、ひとつの研究室から申請される複数の研究テーマは、(広い目でみると)似ているものが多く、研究テーマに優劣を付けることが難しいのです。また、申請者の独創性が、どこまで、研究に行かされているのか、申請書を読んだだけでは分からないものがあります。

このような事情で、採択と不採択の基準は、かなり微妙です。本研究助成では、不採択になった研究テーマに、不採択になった理由を知らせますが、その理由は、かならずしも、絶対的不採択の条件ではありません。すなわち、不採択の研究テーマは、常に、不採択とは限りません。今年の申請で、運悪く、不採択になることもあるが、同じ研究テーマが、次の年に採択されることもあります。従って、ぜひ、この研究テーマで、研究をやりたい、という研究テーマであれば、不採択でも、諦めずに、次の年に申請していただきたいと思います。

〔複合系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2023-6017	王 梓		中国	北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻海洋計測学講座	博士後期課程2年	ニシンの音響散乱特性に関する研究	1,200,000
	2023-6006	松井 貴大			北海道大学大学院農学院農学専攻	博士後期課程1年	果実内部のカビ被害の進行を診る：非破壊評価手法と深層学習による画像診断モデルの開発	1,050,000
宮城県	2023-6008	増田 英敏			東北大学大学院理学研究科地学専攻	博士前期課程2年	津波堆積物の分布量推定手法の構築と古津波規模評価への適用	950,000
茨城県	2023-6022	齊藤 夕貴	女		筑波大学医学医療系	助教	オレキシンと共存する神経伝達物質による睡眠制御機能の解明	1,100,000
栃木県	2023-6003	滝田 実優	女		宇都宮大学大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻	博士前期課程1年	低コスト・小型な動脈硬化指標の計測を目標としたパルスオキシメータ型血管内皮機能計測機器の開発	1,050,000
埼玉県	2023-6037	榎本 沙彩	女		埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修	博士前期課程2年	妊娠－出産のライフイベントが女性の変形性膝関節症発症リスクに及ぼす影響の解明	850,000
千葉県	2023-6015	根本 夏林			東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	博士後期課程1年	インド洋全域の気候変化を駆動するインドネシア通過流の流量変化の復元：新手法ベリリウム同位体の利用	1,190,000
	2023-6018	岡本 葵	女		国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻	修士課程2年	医食同源とSDGsから考える海洋深層水ベース食品開発と健康分野への活用による機能性訴求	870,000
	2023-6039	大坂 雄一郎			東邦大学大学院理学研究科環境科学専攻	博士前期課程2年	干潟環境中における多環芳香族炭化水素（PAHs）の挙動とベントスとの関係	980,000
東京都	2023-6029	小野内 摩耶	女		電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士前期課程2年	性周期が与える骨格筋パフォーマンスへの影響	550,000
	2023-6019	棚町 兼也			東京都立大学人間健康科学研究科理学療法科学域	特任助教	他動的脳内運動イメージを増強するためのtACSを用いたニューロモジュレーション法の萌芽的挑戦研究	1,050,000
	2023-6027	小平 友大			創価大学大学院理工学研究科環境共生工学専攻	博士後期課程1年	メタン発酵消化液とバイオ炭の共施用による環境負荷低減型営農技術の確立	900,000
	2023-6033	福田 一葉	女		東京農業大学大学院地域環境科学研究科地域創成科学専攻	博士前期課程2年	エンターテイメント要素をもつ情報発信と博物展示法に関する研究－国立公園ビジターセンターを対象として－	800,000
	2023-6035	作道 悠			日本大学大学院総合基礎科学研究科地球情報数理科学専攻	博士前期課程2年	衛星画像を用いた、火星の内部構造を読み解く新しい手法の検討－断層間隔から理解する地殻の厚さ－	500,000
	2023-6040	栗野 友太			北里大学大学院感染制御科学府感染制御科学専攻	博士後期課程1年	ナイシンによる放線菌の二次代謝産物生産活性化メカニズムの解明および新規生物活性物質の探索への応用	750,000
神奈川県	2023-6038	周 詳		中国	東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻	博士後期課程1年	癒着性小腸閉塞に対する新たな電気刺激治療デバイスの開発	950,000
	2023-6020	伊藤 貴仁			横浜市立大学大学院生命医科学研究科生命医科学専攻	博士後期課程2年	細胞外タンパク質を分解するペプチド型LYTACの創製	850,000
	2023-6014	佐藤 洋太			海洋研究開発機構地球環境部門北極環境変動総合研究センター北極化学物質循環グループ	ポストドクトラル研究員	インドヒマラヤ地域における氷河流出量の推定とそのメカニズムの解明	1,050,000
富山県	2023-6032	畠山 菜	女		富山大学大学院理工学研究科理工学専攻	修士課程2年	人工衛星を用いた立山周辺積雪域の雪氷藻類による赤雪の面的分布評価と環境因子との関係推定	500,000
石川県	2023-6028	張 昊		中国	金沢大学大学院医薬保健総合研究創薬科学専攻	博士後期課程3年	日中両国の自動車排ガス規制により都市大気中多環芳香族炭化水素類の変遷	800,000
	2023-6002	Mundo Rodrigo		エルサルバドル	金沢大学大学院環日本海域環境研究センター	博士後期課程2年	黒潮支流海域表層（～300 m）におけるCO2固定への有機汚染物質の影響評価	1,300,000

〔複合系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
石川県	2023-6012	川北 輝			北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科先端科学技術専攻	博士前期課程2年	メタバースにおける構成的グループ・エンカウンタの効果研究：孤独の解消を目指して	450,000
愛知県	2023-6036	伊藤 愛	女		名古屋工業大学大学院工学研究科共同ナノメディシン科学専攻医薬支援ナノ工学部門	博士後期課程2年	哺乳類と両生類から探る脊椎動物の陸生適応による心室心筋細胞の力学特性の変化	1,500,000
	2023-6005	諏訪部 晋			名古屋市立大学大学院薬学研究科医療機能薬学専攻	博士課程4年	経鼻投与を介した脳腫瘍標的化を目指した機能性シトラスレモン由来脂質ナノ粒子の開発と薬物高封入法の検討	1,050,000
	2023-6011	藤井 一弥			国立長寿医療研究センター研究所老年学・社会科学研究センター予防老年学研究部	特任研究員	高齢者のうつ改善およびwell-beingに効果的なプロダクティブアクティビティのパターンの解明	850,000
三重県	2023-6030	瀬川 あすか	女		三重大学大学院生物資源学研究科資源循環学専攻	博士前期課程2年	海岸林における外生菌根菌の菌糸圏バクテリア群集の探索と樹木の成長に与える影響	1,050,000
滋賀県	2023-6026	吉岡 歩	女		立命館大学総合科学技術研究機構	専門研究員	社会的インタラクションを支える他者の心的状態の予測と共有の神経基盤の解明	900,000
京都府	2023-6001	澤井 舜			京都橘大学大学院健康科学研究科健康科学専攻	博士後期課程1年	内的焦点と外的焦点による脊椎圧迫骨折患者の立位バランスと脳波の差異	950,000
大阪府	2023-6031	谷本 泰士			大阪公立大学理学研究科化学専攻	特任助教	光ピンセットを用いた人工細胞膜ドメイン操作による細胞膜機能の創成	900,000
	2023-6024	新屋 進			摂南大学大学院薬学研究科医療薬学専攻	博士課程4年	多剤耐性菌に有効な細菌選択的MATE型輸送体阻害剤の創生	750,000
兵庫県	2023-6034	林 綺婷	女	中国	神戸大学大学院保健学研究科看護学領域家族看護学分野	博士後期課程2年	家族スピリチュアリティ低下のスクリーニング尺度の開発とその有効性の検討	950,000
	2023-6023	吉本 剛瑠			神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻	博士前期課程2年	堆積盆の圧密特性から検討する地殻テクニクスとカルデラ火山形成過程の相関	1,030,000
岡山県	2023-6009	櫻井 萌	女		岡山大学学術研究院環境生命自然科学研究科	助教	ブリッジマナイトの最大含水量の決定：惑星表層の水の存在可能性に対する制約に向けて	1,050,000
	2023-6025	濱田 大幹			川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科	助教	遠泳時の生体情報リアルタイム分析による個別最適な溺水事前検知AIシステムの開発	1,190,000
広島県	2023-6004	四元 まい	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻数理生命科学プログラム	博士後期課程1年	リン脂質分子膜の動的応答を指標とした匂い分析システムの開発	1,100,000
高知県	2023-6007	SAMBAJON SARAH	女	フィリピン	高知大学大学院総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻	博士課程3年	フィリピン国マヨン山周辺の農地土壌特性の空間変異評価－異なる農業タイプと在地の土壌知識に着目して－	900,000
福岡県	2023-6016	林 成一郎			九州大学システム生命科学研究科システム生命科学専攻	一貫制博士課程5年	アミノ酸残基特異的な熱力学・速度論的NMR解析が明らかにするタンパク質分子のスムーズな構造変換機構	1,000,000
	2023-6021	粕谷 拓人			九州大学大学院理学府地球惑星科学専攻	博士後期課程1年	最終間氷期における南米パタゴニア氷原の融解史復元	470,000
	2023-6010	有光 潤真			福岡工業大学大学院工学研究科知能機械工学専攻	修士課程2年	樟脳ろ紙の分岐パターンの遷移現象	1,040,000

2023 年度実践系総評

実践系選考委員会委員長

2023 年度の実践研究計画の選考結果を踏まえ、次年度の申請の際に参考にしていただきたい点について以下に記します。

本年度の全体傾向と特徴

実践研究部門は、毎年、実践研究A「教員、NPO職員が行う問題解決型研究」と実践研究B「学芸員・司書等が行う調査・研究」に分けて募集しています。昨年に引き続き本年度も今日的な社会課題（文化財保存、環境問題、地域づくり、生涯学習支援、高齢者保健医療、ICTを利用した教育活動、特別支援教育など）の解決を目指そうとする意欲的な研究や、コロナ災禍で表面化した課題に光を当てた意欲的な研究の申請がありました。

今後さらに、実践研究の多様性を尊重しつつも、本研究助成において申請が期待されている分野・課題・研究方法を引き続き追究していただくことが重要であると思います。そのこと自体が、我が国における実践研究の深化への貢献につながると考えるからです。

本年度の実践研究部門Bの「学芸員・司書等が行う調査・研究」の申請件数は、一昨年度と比較して3件、昨年度と比較すると8件減少し、計19件と少な目でした。申請者については、博物館に所属する者の応募が最も多く、動物園・天文台を含めた自然系博物館から8件、美術館を含めた人文系博物館から5件の応募がありました。そのような中、今年度は図書館から2件、近年応募が無かった公民館から1件応募があったことは特筆点と言えます。

その一方で実践研究部門A「教員、NPO職員が行う問題解決型研究」では、本年も学校教育現場における授業研究の延長線上の枠組に閉じたもの、またこれは学術研究としての助成を別途追求した方が適切とみられるものが見られました。また、研究の社会的波及効果や期待される実践的成果に関する記述が具体的でないため、その点に関するプログラム評価が難しいケースが見られ、この点での改善も引き続き必要だと考えます。

実践研究か学術研究か

研究計画も優れたものが多い印象でしたが、一方で、実践研究部門の助成の方針と特徴の理解不足や実践の場を持っている申請者でも「実践を通じて課題解決を目指す」というよりも課題そのものを研究する研究計画で、「学術研究部門に申請されるべき研究」も見受けられました。

分野別に見ると、例年は歴史学の分野からの申請が少なかったのに対し、本年度は新しい分野として、芸術系、天文学系、アーカイブズ学・公文書館系の申請もありました。

昨年度までの博物館等からの申請テーマは、資料や標本の研究をベースとしたものが大半を占めていましたが、今年度は展示や教育活動と関わりの強い博物館学的研究テーマが目立ち、5件を占めています。これに加え、保存科学的研究も1件の応募がありました。こうした背景には、2022年度にICOM（国際博物館会議）による博物館定義の改訂があったこと、2023年4月から改正博物館法が施行されることなどがあるのかも知れません。本研究助成で目指す社会問題の解決という視点に合致するので、今後もこのような傾向が続くのが望ましいと考えます。また、改正博物館法でも、他分野との「連携」が重要なキーワードとなっているため、関連団体と連携しながら、上記課題の解決を図ることが求められるのではないかと思います。

近年の著しい情報技術の普及・発達を踏まえ、収蔵資料のデジタルアーカイブ化の推進が謳われるようになっていきます。本年度の申請にあっても、資料のDX化や各種学術情報のデータベース化に関する申請が見受けられました。今後も当該分野は重要な研究テーマとなり得ますが、それだけに、デジタル情報の具体的活用方法とその効果にまで踏み込んだ申請が求められるのではないのでしょうか。

異なる組織、教育施設、医療・福祉施設、博物館・図書館・公文書館・公民館・大学・ボランティアなど様々な立場の人々が協働しながら研究を行い、社会問題の解決に向けて新しい視点を提起することは本研究助成の趣旨ですので、申請時にはその点を踏まえていただければ幸いです。今後、博物館現場に加え、図書館現場や公民館現場からの申請の増加にも期待したいところです。

研究予算計画

実際、なかなか研究費が得にくい現実が確かにあると思いますが、「第一線で活躍する専門的立場にある者を対象にした、数ある民間研究助成の中でも他に類を見ない制度」「ますます多様化・複雑化する社会が生み出す新しい課題に向かって果敢にチャレンジし新しく途を開くような研究」という本研究助成の趣旨をはじめにご理解いただいた上で、より広く、より地域的・社会的・現代的な文脈に即した申請が増えることを期待しております。

もちろん、研究の価値は多様な基準から評価されてしかるべきです。ただし、ここでは本研究助成がもつ上記の社会的意味合いに照らして評価がなされていること、またそうした評価を受けて助成を獲得する研究が増加することが社会的な価値を持つことを強調しておきたいと思います。

具体的に申し上げますと、研究計画に対して研究費の使途が不明確な申請も散見されます。例えば、研究費のほとんどが、論文投稿費用や学会参加費、または学会参加のための旅費、図書費であれば入門書のような書籍や研究にどのように関連するのか明記されていないケースがありました。また大学時代に世話になった恩師の論文をまとめるための印刷費を計上している申請者もありました。

海外調査の旅費も研究計画になぜその調査先を選定するのか明記されていないケース

や、海外調査はするけれども、研究内容に記載されていない連携先の博物館で研究成果を発表予定するなど、研究背景や文脈が読み切れない申請書もあり、単なる思い付きや物見遊山的な海外視察と見えるようなケースがあったことは非常に残念です。調査のための旅費・交通費は当然に必要な費用ではあっても、その研究テーマに則して何故そのフィールドをあえて調査するのか明確に書かれていない計画書も散見されます。当然ですが、そういう申請に対しては助成することは絶対にありません。

また、初めて実践を始めるために必要だとされている汎用的な機材や消耗品を助成金で賄おうとする申請では、計画書通りの実践研究の遂行に懸念が残るものもありました。研究助成を申請される際には、本助成制度の趣旨を今一度確認され、ご自身の研究計画との妥当性を吟味していただきたいと思います。

最後に

本年度はいずれの申請内容も興味深く、申請の中には、本研究助成の理念・趣旨から見て、成果を大いに期待したいものもありました。様々な博物館や市民と連携した申請も多かったこともひとつの特徴と言えるでしょう。

「研究」というには調査等の方法論がナイーブ過ぎて、さしたる知見は得られないのではないかとみられるものもあったことも事実です。申請前に、所属組織等において十分精査の機会を持つこともぜひご検討いただきたいと考えます。助成申請の段階にまで至っていないのではないかと見られる案件もあり、まず基礎となる予備的研究を経て申請に至るという判断も考慮に入れていただければとよいと考えます。

この点では、推薦者の皆さまにもさらなるご指導・ご助言をお願いしたいところです。

多様化・複雑化する社会が生み出す新しい課題に向かって「果敢にチャレンジし新しい途を開くような研究」という本研究の助成趣旨を鑑み、より広く地域的・社会的・現代的な文脈に即した申請が増えることを期待しております。コロナ禍における厳しい状況が続く今日だからこそ実践研究を進め、「新しい課題」へ挑戦していただきたいと願っております。

〔実践系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2023-8006	高橋 佳久			北海道博物館	学芸員	文化財害虫（シミ目）に対する簡便な物理的防除方法の開発-多くの博物館で実践可能な対策を目指して-	380,000
岩手県	2023-8007	平田 哲兵			岩手県立大学宮古短期大学部	講師	海を志す人材育成に向けた、水中ドローン海洋生物観察教室や技術体験教室などの教育プログラムの開発	320,000
千葉県	2023-8017	井本 紗織	女		東都大学附属図書館幕張分館	司書	大学図書館を通じたヤングケアラー支援——大学生らしく学ぶための情報発信方法——	140,000
東京都	2023-8012	藤原 博伸			(NPO)富士山測候所を活用する会富士山環境研究センター	研究員	市民参加型雷位置評定全国ネットワークの参加促進用マニュアル構築	390,000
	2023-8010	長谷川 暢子	女		国立西洋美術館学芸課教育普及室	研究補佐員	美術館における豊学校向け教育プログラム開発のための基礎研究	330,000
山梨県	2023-8005	埴 宗継			山梨大学大学院総合研究部医学域基礎医学系解剖学講座構造生物学教室	特任助教	海なし県“山梨県”における走査型電子顕微鏡を用いた海産動物の理解促進に関する海洋教育の実践と普及	310,000
長野県	2023-8009	山中 史江	女		筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所	技術専門職員	一般市民との協働による生涯学習の場「みんなの標本庫」での菌類及び地衣類標本整備に向けた手法開発	340,000
新潟県	2023-8003	山口 勇氣			長岡技術科学大学工学部基盤共通教育系自然科学講座	講師	小学校理科におけるサイエンスショーの教育効果に関する実践的研究	370,000
静岡県	2023-8014	山根 真智子	女		ふじのくに地球環境史ミュージアム	インタープリター	博物館の資源である収蔵標本や展示を活用した探究的な学びの実践	310,000
愛知県	2023-8004	勝倉 明以	女		名古屋市立東丘小学校	教諭	国語教育を中心とした教科横断的な学習の学習効果に関する実践的研究	310,000
京都府	2023-8015	河北 秀世			京都産業大学神山天文台	天文台長	博物館展示方法のデジタル・トランスフォーメーション（DX）：天体観測データを例に	330,000
	2023-8002	諫山 憲司			明治国際医療大学保健医療学部/附属防災救急救助研究所	教授/副所長	“ふるさとレスキュー”による「子ども防災士」養成による実践的防災人育成プロジェクト	390,000
	2023-8011	星野 智			京都市動物園種の保存展示課	畜水産技術者	動物園動物を対象とした栄養管理ソフト開発に向けたデータベースおよびシステム構築	320,000
大阪府	2023-8008	梶原 友美	女		大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻	招聘教員	精神科訪問看護師が実践しているひきこもり支援の実態と支援構造の明確化	310,000
福岡県	2023-8016	下條 光浩			福岡工業大学工学部生命環境化学科	非常勤講師	軽石問題の解決に向けた海底還元の実証試験	370,000
長崎県	2023-8001	城本 高輝			長崎国際大学人間社会学部国際観光学科	准教授	長崎県の海洋地域のワーケーションについての研究—五島・壱岐の海洋資源を活用した関係人口の創出—	340,000

2023年度笹川科学研究助成 応募・採択状況

学術研究部門

領域	人文・社会系	数物・工学系	化学系	生物系	複合系	合計
採択件数	32件	34件	34件	164件	39件	303件
応募件数	115件	117件	133件	574件	149件	1,088件

属性	大学院生		女性		留学生及び外国籍研究者	
	件数	全体比	件数	全体比	件数	全体比
採択	228件	75.2%	107件	35.3%	46件	15.1%
応募	792件	72.8%	363件	33.4%	142件	13.1%

実践研究部門

領域	実践A系 教員・NPO等	実践B系 学芸員・司書等	合計
採択件数	10件	6件	16件
応募件数	37件	19件	56件

2022年度笹川科学研究奨励賞 概要

【笹川科学研究奨励賞について】

日本科学協会では、笹川科学研究助成の対象者となった若手研究者の励みとなるよう、2007年度から「笹川科学研究奨励賞」を創設いたしました。

受賞者の選考にあたっては、「さまざまな理由で他から助成の得難い研究」を考慮した上で、次の視点を加えて笹川科学研究助成選考委員会で選出いたしました。

- ・研究の姿勢が真摯であること
- ・研究の遂行に創意と工夫の努力がうかがえること
- ・研究成果につながる結果を出していること
- ・今後の研究の進展が期待できること
- ・次年度以降も研究に従事すること

2022年度笹川科学研究助成においては、研究を完了した333名の中から、16名が「笹川科学研究奨励賞」に選出されました。

受賞者の研究内容については当会Webサイトで公開しておりますので、よろしければご覧ください。

HOME > 協会の助成活動 > 笹川科学研究助成 >

奨励賞 > 2022年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

<https://www.jss.or.jp/ikusei/sasakawa/shoureishou/shoureishou2022.html>



2022年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

研究領域	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関：助成時	職名：助成時	研究課題
人文・社会系	2022-1012	梶西 由記子	女		東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻	博士後期課程2年	17世紀オランダ絵画に見る芸術と科学：静物画に描かれた頭蓋骨の解剖学的アプローチによる図像分析
	2022-1029	川村 潤子	女		名古屋大学大学院人文学研究科文化動態学コース	博士後期課程3年	中間層ニューカマーとしての中華料理人の移民実態と展望—海を渡った中国人のネットワーク形成の視点から
数物・工学系	2022-2015	加賀見 俊介			筑波大学大学院理工生命情報学術院システム情報工学研究群構造エネルギー工学学位プログラム	博士前期課程2年	気泡と超音波が切り拓く低侵襲がん治療のための数理的・数値的基盤の創成
	2022-2021	太田 雅人			大阪大学レーザー科学研究所	特任研究員	超高エネルギー電子ビーム放射機構の実験的研究
化学系	2022-3013	楠本 壮太郎			神奈川大学工学部物質生命化学科	助教	柔軟な結晶の動的分子間を利用した特異機能性材料の創成
	2022-3024	宮原 涼			九州大学大学院薬学府創薬科学科	博士後期課程2年	酸化損傷塩基を特異的に認識しシーケンシングを可能にする人工核酸の開発
生物系	2022-4019	田中 愛海	女		東京薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻	博士課程3年	ヒト肺組織上における呼吸器細菌間クロストークの解明
	2022-4047	森川 勝太			東京大学大学院薬学系研究科	特任研究員	Axo-axonic細胞特異的な観察と操作による情動回路の解析
	2022-5003	瀬戸口 優乃	女		宮崎大学大学院農学研究科農学専攻応用生物科学コース	修士課程2年	管理栄養士が慢性腎臓病患者のための低カリウム含有サツマイモを作る
	2022-5005	上原 春香	女		奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科自然科学専攻	博士後期課程1年	学習の連鎖が引き起こす水田生態系における間接効果の評価
複合系	2022-6002	荻野 魁人			会津大学大学院コンピュータ理工学研究科コンピュータ・情報システム学専攻	修士課程1年	機械学習による月の南北極未踏地域の電子地図製作
	2022-6020	劉 自振		中国	長岡技術科学大学大学院工学研究科エネルギー・環境工学専攻	博士後期課程1年	微小腫瘍の超早期診断・治療を実現するクロロフィル含有アパタイトナノ結晶の創製
海に関する研究	2022-4012	中島 広喜			琉球大学大学院理工学研究科	博士後期課程1年	絶滅危惧種シマトラフヒメシャコをはじめとした沿岸性希少シャコ類の探索と分類学的研究
	2022-4031	大町 知輝			室蘭工業大学大学院工学専攻	博士後期課程1年	水産系廃棄物アコヤガイ貝殻真珠層の有効利用—機能性食品としての利用—
実践系	2022-8004	山田 菜月	女		市立小樽美術館	学芸員	美術と福祉の多視点による障害者の芸術作品の展示に関する研究—発展期における新たなアーカイブ作成—
	2022-8017	塩飽 敏史			(公財)水島地域環境再生財団	理事兼研究員	高校生による浅海域の底質中マイクロプラスチックの空間的・時代的分布調査～地域社会の意識変革に向けて～

